

あわだいせき  
粟田遺跡(第3・4・5・17次)

2018

石川県野々市市教育委員会

## 目 次

第1章	調査の経過	1頁	第5章	第5次調査
第2章	歴史的環境	1頁		1. 遺構 28頁
第3章	第3次調査			2. 遺物 39頁
	1. 遺構	3頁	第6章	第17次調査
	2. 遺物	3頁		1. 遺構 42頁
第4章	第4次調査			2. 遺物 46頁
	1. 遺構	14頁	第7章	総括 47頁
	2. 遺物	21頁		写真図版 49頁

## 例 言

- 1 本書は、栗田遺跡発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は石川県野々市市栗田地内及び中林地内である。
- 3 調査原因及び調査費用については以下のとおりである。

	調査年次	調査原因	費用負担	調査担当者
第3次	平成元(1989)年	屋内ゲートボール場建設	野々市町	横山貴広
第4次	平成2(1990)年	野々市町スポーツランド建設	野々市町	横山貴広
第5次	平成4(1992)年	野々市農業協同組合施設建設	野々市農業協同組合	田村昌宏
第17次	平成25(2013)年	野々市市富奥防災 コミュニティセンター建設	野々市市	永野勝章 多間 勝

- 4 発掘調査は野々市町(2011年より野々市市)教育委員会が担当した。
- 5 出土品の整理は各調査終了後に実施した。
- 6 報告書作成は平成29年度に行い、平成30年3月に刊行した。図版作成を田村昌宏、山田由布子(野々市市非常勤職員)、本文は腰地孝大が担当した。なお第5章については山田が執筆したものを腰地が加筆、再編集している。校閲は田村昌宏が行った。
- 7 報告書作成に当たっては野々市市が費用を負担した。
- 8 出土遺物及び記録類については野々市市教育委員会が保管している。
- 9 第3次から第5次調査は日本測地系、第17次は世界測地系に基づき測量を実施している。
- 10 遺構の略称については以下のとおりである。  
SI:堅穴建物 SB:掘立柱建物 SK:土坑 P:小穴
- 11 遺構全体図は第3次及び第5次は手実測により記録し、第17次は株式会社太陽測地社に航空写真測量を委託した。第4次は担当者の不手際により全体図を記録せず、報告書作成時に写真から復元した。復元作業に当たっては菊地由里子、花田和希(野々市市非常勤職員)の協力を得た。

## 第1章 調査の経緯

栗田遺跡は平成元年から平成25年まで第17次調査にわたり調査を行っている。そのなかで本書では未報告であった3~5次及び第17次の報告を行う。過去の栗田遺跡発掘調査の経緯については以下のとおりである。

調査次	調査年度	調査原因	調査面積(m <sup>2</sup> )	報告書刊行年
1	平成元年	工場建設	11,500	県1991
2	平成2年	工場建設	6,000	町1992
3	平成元年	屋内ゲートボール場建設	1,100	本報告書
4	平成2年	野々市町スポーツランド建設	3,800	本報告書
5	平成4年	野々市農業協同組合施設建設	1,000	本報告書
6	平成5年	道路建設	1,430	町2000
7	平成7年	店舗建設	450	町2000
8	平成7年	交番建設	150	町2000
9	平成8年	道路建設	2,140	町2000
10	平成11年	中南部土地区画整理事業	2,400	町2006
11	平成11年	中南部土地区画整理事業	1,600	町2010
12	平成12年	中南部土地区画整理事業	680	町2008
13	平成16年	中南部土地区画整理事業	2,170	町2010
14	平成17年	中南部土地区画整理事業	1,409	町2010
15	平成17年	中南部土地区画整理事業	3,339	町2008
16	平成19年	工場建設	6,026	町2009
17	平成25年	野々市富奥防災コミュニティセンター建設	400	本報告書

## 第2章 歴史的環境

周辺の環境については概要のみに止め、詳細は既刊行の報告書及び野々市町史を参照されたい。

栗田遺跡が位置する手取川扇状地扇央部では、扇状地特有の礎原が各所でみつかっている。第1次調査では、縄文後晩期から弥生時代にはこの礎を用いて打製石斧を製作する拠点であったことが明らかになっている。その後、空白期間をはさみ8世紀前半から9世紀の集落がみつかっており、数棟の竪穴建物と掘立柱建物が点在する散居村の様相を呈する。中世では栗田遺跡南東側を中心に竪穴状遺構が点在する。古いものは13世紀代に遡るが、15世紀から16世紀初頭のものが集中している。



第1図 調査区配置図 (S=1/5000)

## 第3章 第3次調査

### 第1節 遺構

古代の堅穴建物4棟、掘立柱建物8棟を検出した。調査区東側に南北に走る幅約5mの大溝があり、その両側に建物が分布している。SB5及びSB8は特に大型の掘立柱建物である。

#### 堅穴建物

- SI1： 調査区中央で検出。南北3.8m、東西4.9mの長方形プランを呈する。南東隅に地山を掘り残す形で構築されたカマドを持ち、その西側に土坑を伴う。遺物は8世紀中頃の須恵器及び土師器が出土している。(第3図・第8図-1~14)
- SI2： 調査区中央の大溝西岸で検出。SI3に切られるため規模は不明である。東西3.4mの隅丸長方形の平面プランである。8世紀後半ごろの遺物が出土している。(第3図・第8図-15~20)
- SI3： 調査区中央の大溝西岸で検出。SI2を切る。南北3m、東西4m、平面プランの北側は長方形であるが南側は不整形である。(第3図・第8図-21~22)
- SI4： 調査区東側で検出。南北3.3m、東西3.1m、平面形は若干不整形な方形プランである南西隅に落ち込みが認められるが、カマドなどは認められなかった。8世紀後半から9世紀初頭ごろの遺物が出土している。(第4図・第8・9図-23~33)

#### 掘立柱建物

- SB1： 南北3.1m、東西3.3m。2間×2間の側柱建物。建物軸は16度西に振れる。柱穴は円形プランで直径約50cm、深さ約30cmほどを測る。SB2と重なるが、前後関係は不明である。(第4図)
- SB2： SB1と重なり南側に位置する。南北3.7m、東西3.2m。2間×2間の側柱建物。建物軸は13度西に振れる。柱穴は円形プランで直径約30~40cm、深さ20~50cmほどを測る。(第4図)
- SB3： 南北4m、東西4m。2間×2間の側柱建物。建物軸は9度西に振れる。柱穴は円形から楕円形プランで直径約60cm、深さ約50cmを測る。SB4と重なり合い、柱穴の切り合いからSB3が新しいものである。(第5図)
- SB4： 南側は調査区外に延びる。南北5m以上、東西4.9m。南北2間以上、東西2間の側柱建物で、建物軸は17度西に振れる。柱穴は円形プランで直径60~80cm、深さ約65cmを測る。(第5図)
- SB5： 南北10.6m、東西6.5m、4間×2間の側柱建物で、粟田遺跡でみつかった古代の掘立柱建物としては最も大型である。建物軸は5度西に振れる。柱穴は方形プランで直径約60~90cm、深さ最大で約1mほどを測り、柱痕が残るもの認められる。平面プランが比較的均整な方形プランであり柱掘方が版築状に埋め戻されていることなど、他の建物とは一線を画するものである。(第6図)
- SB6： 調査区西側で検出。南北8.5m、東西4.8m。4間×2間の側柱建物である。建物軸は2度西に振れる。柱穴は円形プランで直径約70cmほどを測る。SB5に切られる。(第6図)
- SB7： 調査区南東側で検出し南側は調査区外へ延びる。南北2.7m以上、東西3.7m間の側柱建物である。建物軸は4度西に振れる。柱穴は円形から隅丸方形プランで直径約60cm、深さ約60cmほどを測る。(第5図)
- SB8： 調査区東側で検出。南北8.3m、東西5m、5間×2間の側柱建物である。建物軸は10度西に振れる。柱穴は隅丸方形プランで直径最大約1m、深さ最大60cmほどを測る。SB5同様大型の掘立柱建物であり、柱穴の掘方埋土が丁寧な版築状に堆積するもの認められることも共通する。(第7図)

#### 土坑

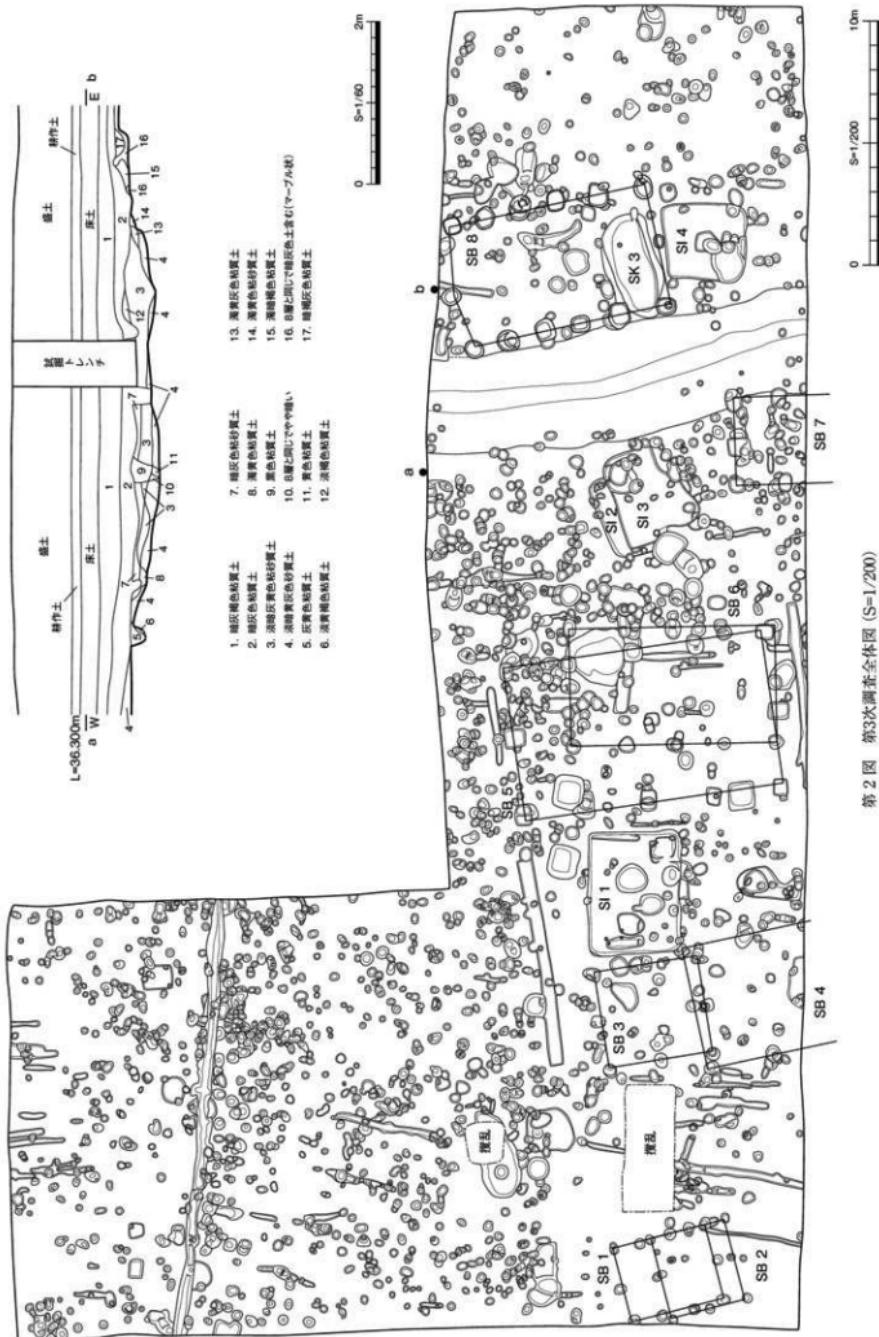
- SK3： 調査区東側で検出し、SB8に切られる。不整形な長梢円形プランで、長軸4.4m、短軸2.1m、深さ約45cmを測る。性格は不明であるが、大型の砥石などが出土している。(第7図・第9図-45)

### 第2節 遺物

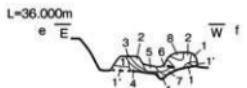
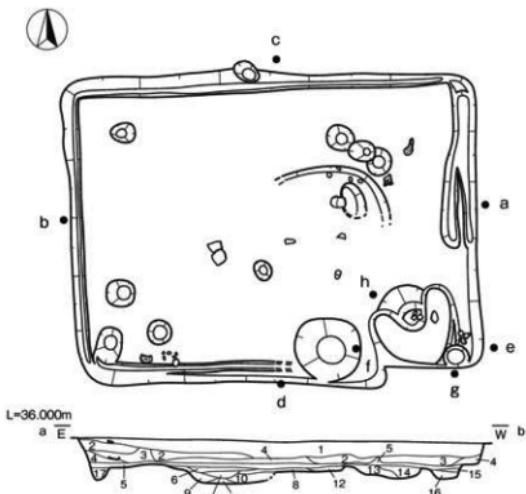
出土した遺物はパンケースで6箱分である。大半が古代の土器であり、古いものは打製石斧などが出土している。掲載した図面は上記の遺構に伴うもののみを抽出している。(第8~9図)

### 第3節 小結

本調査区で検出した掘立柱建物SB5及びSB8はいずれも大型掘立柱建物であり、これまで粟田遺跡で見つかったものでは突出した規模のものである。時期の決め手に欠くものの、調査区内から出土している遺物の年代から概ね8世紀後半ごろに属するものと考えられる。

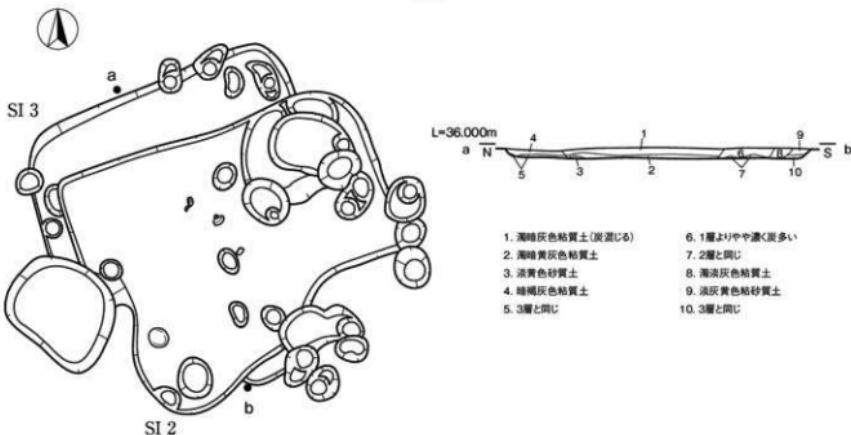


第2図 第3次調査全体図 (S=1/200)



1. 緑灰色粘質土
2. 緑灰色粘質土(塊山ブロック多量に混じる)
- 2'. 緑灰色粘質土
3. 黒色粘質土
4. 2層と同じで塊山ブロックや少ない
5. 黏床1
6. 淡黄色砂質土(塊灰色土帯状に混じる)
7. 淡黄色砂質土(緑灰色土帯状に混じる)
8. 淡黄色砂質土(鉄分混じる)
9. 2層と同じで黃色ブロック更に多い
10. 2層よりやや深い
11. 6層と同じ
12. 8層と同じで暗い
13. 淡黄灰色砂質土
14. 淡暗灰色粘質土
15. 淡暗灰色粘質土(やや暗い)
16. 3層と同じで黒い
17. 淡黄色砂質土(黃色ブロック土多い)
18. 淡黄色砂質土
19. 14層と同じで鉄分-燒土混じる
- 19'. 14層と同じで鉄分混じる
20. 14層と同じ
21. 淡黄色粘質土(塊状暗灰色粘質土混じる)
22. 淡暗灰色粘質土
23. 2'層と同じ
24. 黏床2
25. 黏床3

SI 1

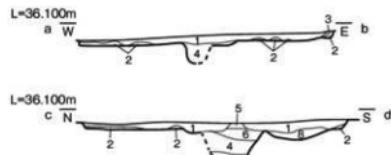
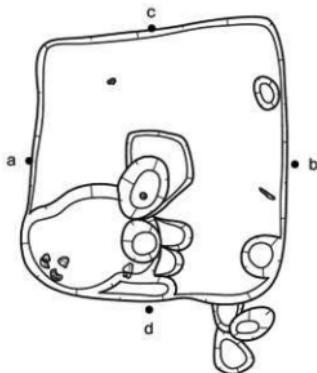


1. 淡暗灰色粘質土(炭混じる)
2. 淡暗灰色粘質土
3. 淡黄色砂質土
4. 緑褐色粘質土
5. 3層と同じ
6. 1層よりやや深く炭多い
7. 2層と同じ
8. 淡暗灰色粘質土
9. 淡灰黄色粘砂質土
10. 3層と同じ

第3図 SI 1, SI 2-3 (S=1/60)

0 5m 10m 2m

Ⓐ

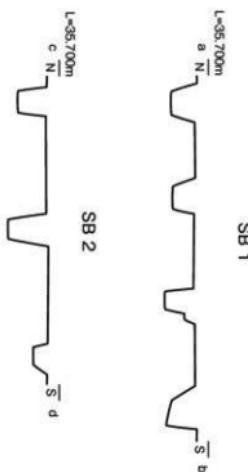
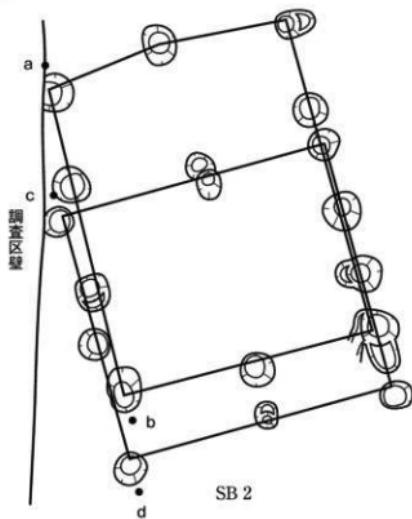


1. 緑灰色粘質土  
2. 濁暗黃色粘質土  
3. 緑灰黃色粘質土  
4. 濁暗灰褐色粘質土  
5. 緑黃褐色粘質土  
6. 濁暗灰色粘質土(黄色ブロック土混じる)  
7. 淡黃色粘砂質土  
8. 濁暗灰色粘質土(黄色ブロック土混じる)

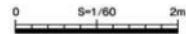
SI 4

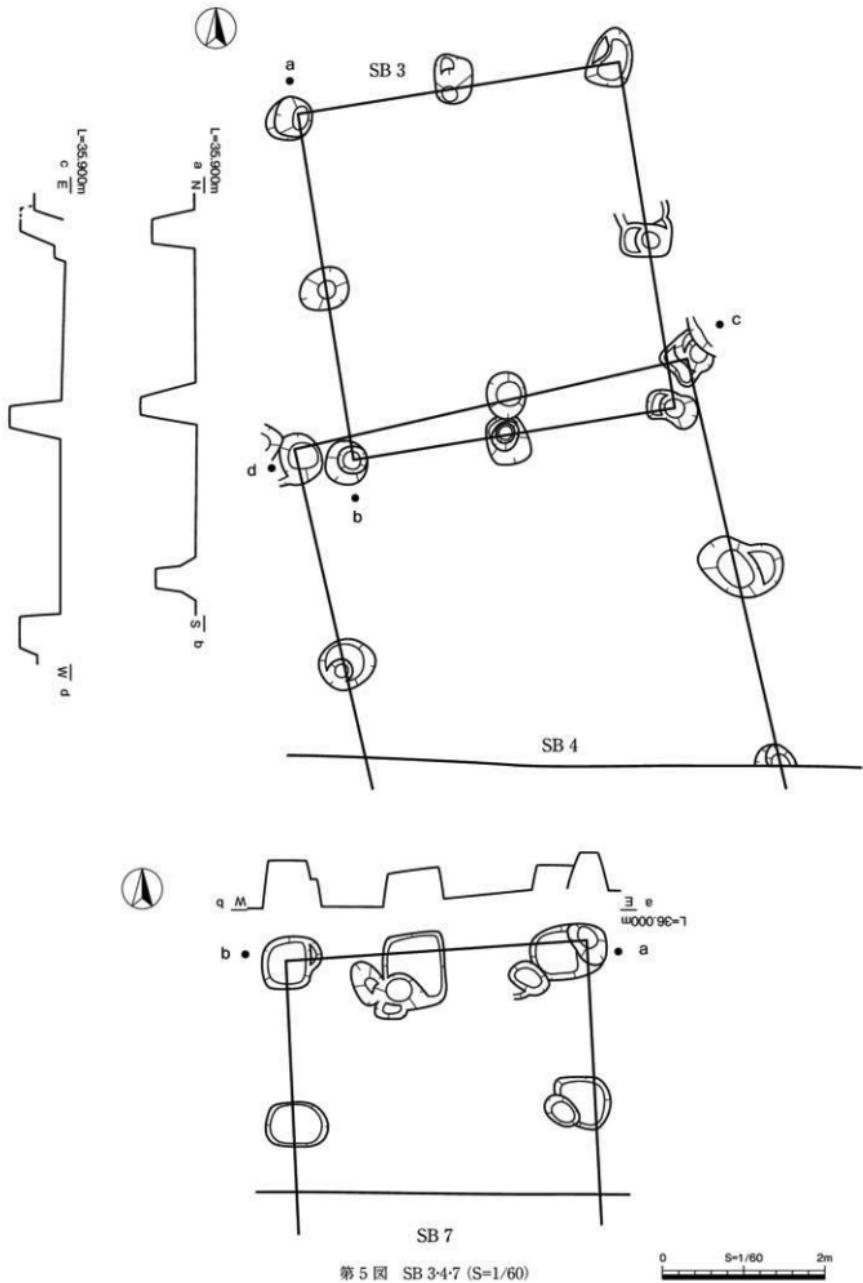
Ⓐ

SB 1

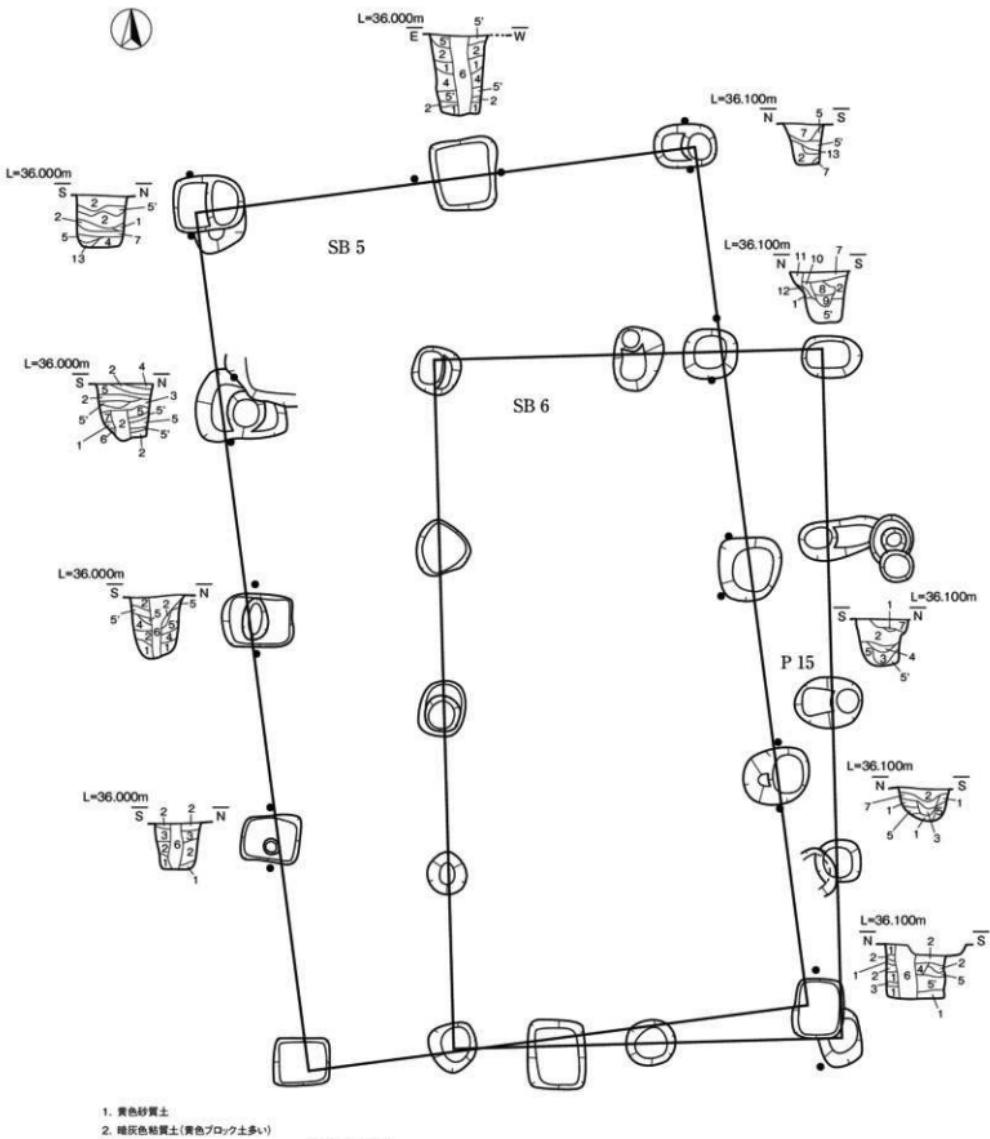


第4図 SI 4, SB 1・2 (S=1/60)



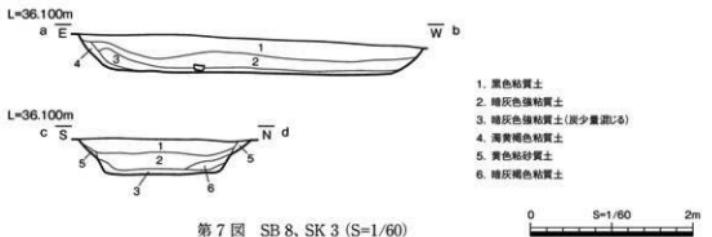
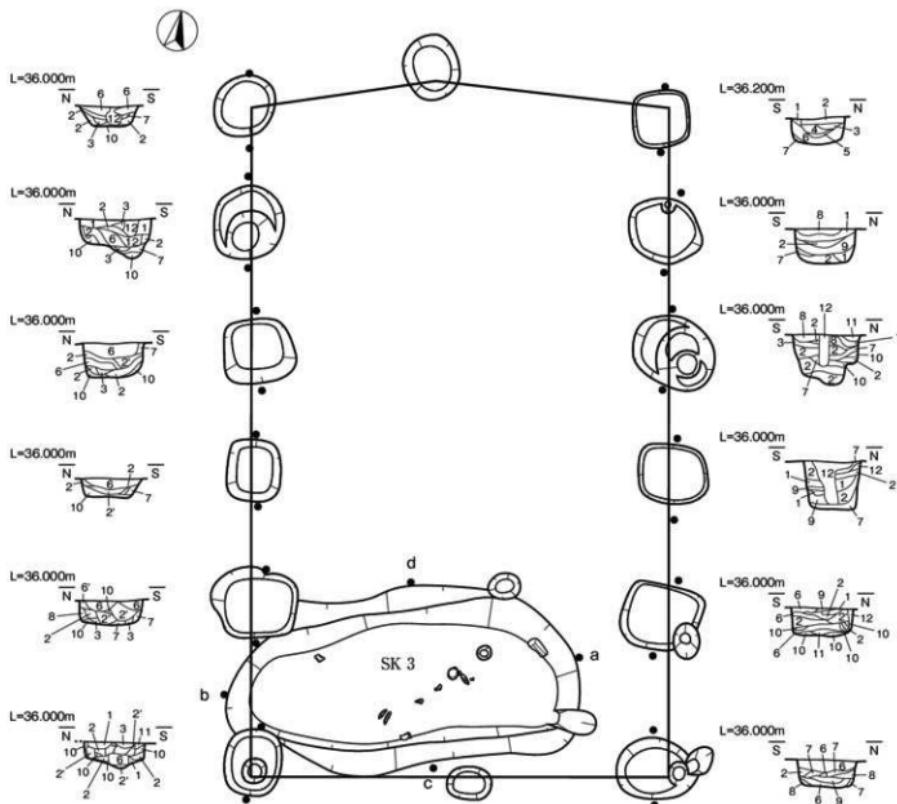


第5図 SB 3・4・7 (S=1/60)

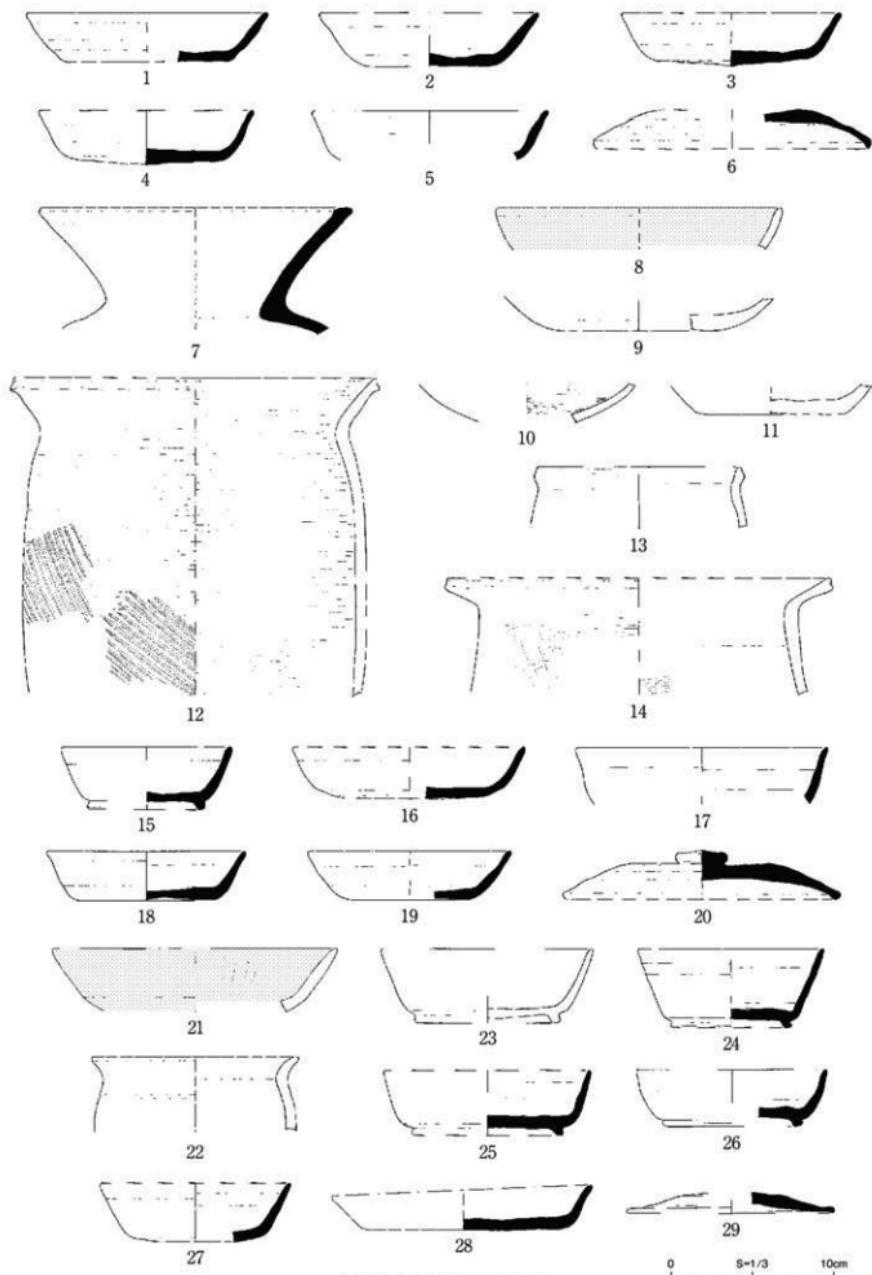


第6図 SB 5-6 (S=1/60)

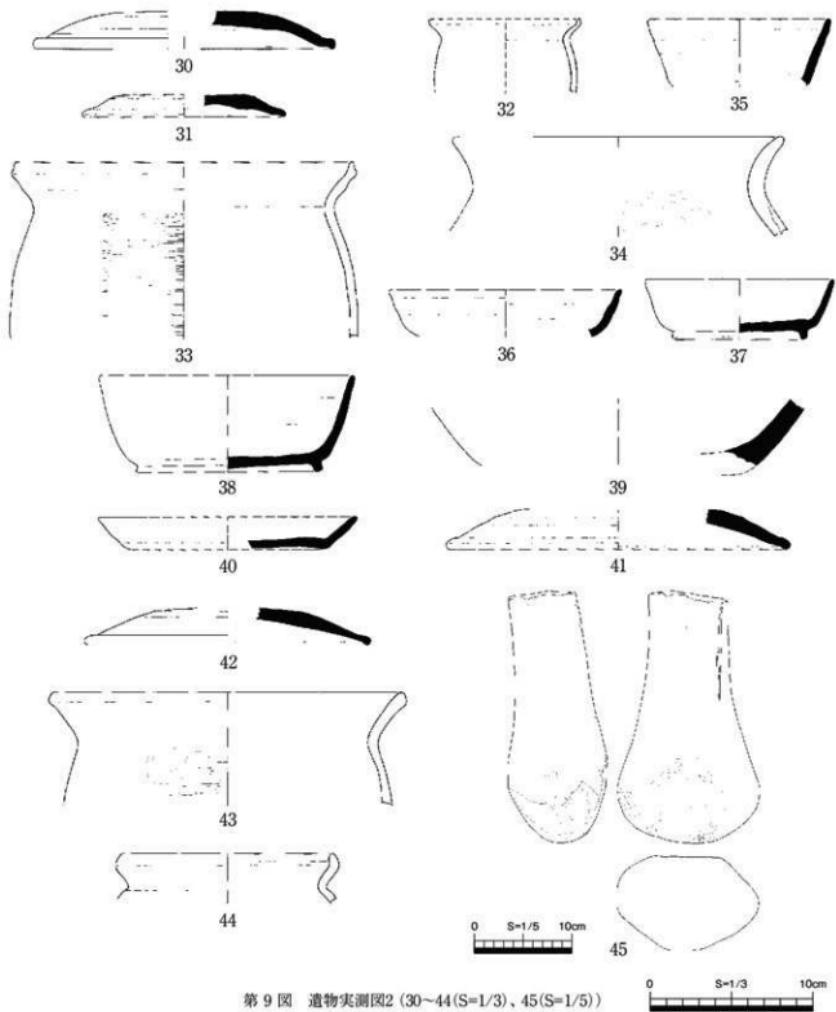
0 5-1/60 2m



第7図 SB 8, SK 3 (S=1/60)



第8図 遺物実測図1 (S=1/3)



第9図 遺物実測図2 (30~44(S=1/3)、45(S=1/5))

第1表 第3次土器観察表1

番号	造構	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整(外)		残存率	備考	実測番号
						調整(内)	色調(外)			
1	SI 1 環	須恵器	150	30	10.7	回転ナデ、回転ヘラ切刃	青灰	1/4		2
		环				回転ナデ	青灰			
2	SI 1 環	須恵器	136	33	8.4	回転ナデ、回転ヘラ切刃	灰褐	1/4		4
		环				回転ナデ	灰褐			
3	SI 1 P 13 環	須恵器	116	99		回転ナデ、回転ヘラ切刃	灰褐	1/2		5
		环				回転ナデ	灰褐			
4	SI 1 南側 環	須恵器	132	97		回転ナデ、回転ヘラ切刃	灰褐	ほぼ完形		6
		环				回転ナデ	灰褐			
5	SI 1 P 8 环	須恵器	146			回転ナデ	灰	1/5		1
		环				回転ナデ	灰			
6	SI 1 床面下 蓋	須恵器	170			回転ナデ、回転ケズリ	灰	1/4		3
		盖				回転ナデ	灰			
7	SI 1 P 2 蓋	須恵器	19.4			ナデ	灰		外面に煤	7
		盖				ナデ	灰			
8	SI 1 床面下 塊	土師器	178			ヨコナデ	淡褐	1/8	内外面に煤 内外面に赤彩痕	10
		块				ヨコナデ	淡褐			
9	SI 1 塊	土師器		10.4		回転ヘラ切刃、ナデ	橙褐	1/2	外面に煤	14
		块				回転ナデ	橙褐			
10	SI 1 土坑 塊	土師器				ナデ	褐	1/4	内外面に煤	13
		块				カキ目	褐			
11	SI 1 塊	土師器		9.4		回転ナデ、回転ヘラ切刃	褐	1/2	内外面に煤	11
		块				回転ナデ	褐			
12	SI 1 カマド内 塊	土師器	224	頬部径 190		ヨコナデ、カキ目、タキ目	褐	1/4	内外面に煤	8
		块				カキ目	褐			
13	SI 1 塊	土師器	126	頬部径 124		ヨコナデ	褐	1/4	内外面に煤	9
		块				ヨコナデ	褐			
14	SI 1 床面下 塊	土師器	238	頬部径 198		ヨコナデ、カキ目	褐	1/8	外面に煤	12
		块				ヨコナデ、カキ目	褐			
15	SI 2 上層 有台环	須恵器	106	39	7.2	回転ナデ、回転ケズリ	明灰	1/2		4
		环				回転ナデ	明灰			
16	SI 2 环	須恵器	144		10.6	回転ナデ、回転ヘラ切刃	灰褐	1/2		2
		环				回転ナデ	灰褐			
17	土坑	須恵器 环	156			回転ナデ	黒褐	小片	外面に自然釉	3
		环				回転ナデ	青灰			
18	SI 2 环	須恵器	124	30	9.4	回転ナデ、回転ヘラ切刃	明灰	1/6		5
		环				回転ナデ	明灰			
19	SI 2 环	須恵器		126		回転ナデ、回転ヘラ切刃	灰褐	1/6	内面に赤彩痕	1
		环				回転ナデ	灰褐			
20	SI 2 蓋	須恵器	17.1	30	つまみ径 32	回転ナデ、回転ケズリ	明灰	1/4		6
		盖				回転ナデ	明灰			
21	SI 3 塊	土師器	176			ナデ、ケズリ	橙褐	1/8	内外面に赤彩痕 内面に暗文あり	1
		块				ナデ	橙褐			
22	SI 3 塊	土師器	126	頬部径 114		摩耗	淡橙褐	1/8		2
		块				摩耗	淡橙褐			
23	SI 4 土坑 有台环	土師器	130	46	90	ナデ、回転ケズリ	橙褐	底部完形		11
		环				ナデ	橙褐			
24	SI 4 有台环	須恵器	114	485	7.5	ナデ、回転ケズリ	暗青灰	底部完形 口縁1/6		8
		环				ナデ	暗青灰			
25	SI 4 土坑 有台环	須恵器	126	48	9.4	ナデ、回転ケズリ	暗灰	1/2		6
		环				ナデ	暗灰			
26	SI 4 上層 有台环	須恵器	118	35	7.6	ナデ、回転ケズリ	暗灰	1/4	外面に自然釉	4
		环				ナデ	暗灰			

第1表 第3次土器観察表2

番号	遺構	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整(外)		残存率	備考	実測番号
						調整(内)	色調(外)			
27	SI 4	須恵器 环	11.6	3.6	0.8	ナデ、回転ケズリ	灰	1/3	ヘラ記号あり「/」	7
						ナデ	灰			
28	SI 4	須恵器 盤	16.0	2.4	12.1	ナデ、回転ケズリ	灰	完形	外底面に黒褐色付着物あり	5
						ナデ	灰			
29	SI 4	須恵器 蓋	(12.4)			ナデ、回転ケズリ	灰	小片		10
						ナデ	灰			
30	SI 4	土師器 蓋	(18.2)			ナデ、天井部回転ケズリ	橙褐色	小片	内外面に赤彩	9
						ナデ	橙褐色			
31	SI 4	須恵器 蓋	12.4			ナデ、天井部回転ケズリ	暗灰	1/7		3
						ナデ	暗灰			
32	SI 4	土師器 小型甕	9.2	頸部径 7.9	8.8	ナデ	淡橙褐色	1/5	外面に煤	1
						ナデ	淡褐			
33	SI 4 土坑	土師器 甕	20.8	頸部径 18.6		ナデ、カキ目	暗褐	1/4	外面に煤 内面に黑色付着物あり	2
						ナデ	暗褐			
34	SB 6 P 15	土師器 甕	20.1			ヨコナデ	橙褐色	1/8	外面に煤	イ
						ヨコナデ、ハケ	橙褐色			
35	SK 3	須恵器 环	11.1			回転ナデ	青灰	1/5		3
						回転ナデ	青灰			
36	SK 3	須恵器 盤	14.4			回転ナデ	黒灰	1/6		5
						回転ナデ	青灰			
37	SK 3	須恵器 有台环	11.8	3.7	8.4	回転ナデ、回転ケズリ	青灰	1/2		7
						回転ナデ	青灰			
38	SK 3	須恵器 有台环	15.8	5.9	11.7	回転ナデ、回転ケズリ	青灰	完形		10
						回転ナデ	青灰			
39	SK 3	須恵器 甕				ナデ	灰褐色	1/8	外面に煤	9
						ナデ	灰褐色			
40	SK 3	須恵器 环	16.0			回転ナデ、回転ヘラ切り	青灰	1/4		6
						回転ナデ	青灰			
41	SK 3	須恵器 蓋	20.8			回転ナデ、回転ヘラ切り	淡灰褐色	1/8		2
						回転ナデ	淡灰褐色			
42	SK 3	須恵器 蓋	17.3			回転ナデ、ケズリ、回転ヘラ切り	灰褐色	1/4		1
						回転ナデ	灰褐色			
43	SK 3	土師器 甕	22.2	頸部径 18.6		ヨコナデ、カキ目	褐色	1/5	外面に煤	8
						ヨコナデ	褐色			
44	SK 3	土師器 甕	12.9			ヨコナデ	橙褐色	1/8	内面に煤	4
						ヨコナデ	橙褐色			

第2表 第3次石製品観察表

番号	遺構	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	備考	実測番号
45	SK 3	砥石	25.9	14.6	9.7	4390.0	砂岩		9

## 第4章 第4次調査

### 第1節 遺構

遺構は古代の竪穴建物 11 棟の他、小ピットを多数を検出した。ピットは調査区全域に分布するが、建物は南から南東側に集中する。また、調査区北側では東西方向に走る道路状遺構を検出した。

#### 竪穴建物

- SI1： 調査区南壁中央で検出。南側は調査区外に延びる。南北 2.0m、東西 4.7m の不整形な隅丸方形プラン。カマド及び柱穴等は確認できなかった。(第 11 図・第 17 図 -1-3)。
- SI2： 調査区南東側で検出。SI3 を切る。南北 4.3m、東西 3.4m の長方形プラン。カマド及び柱穴等は確認できなかった。(第 12 図・第 17 図 -4-11)。
- SI3： 調査区南東側で検出。覆土 7 から 9 は不整形な土坑 SX1 であり、SI3 を切る。南北 1.8m、東西 3.3m の隅丸方形プラン。カマド及び柱穴等は確認できなかった。(第 12 図・第 17 図 -12)



- SI4: 調査区南東隅で検出。南東隅は調査区外に延びる。南北 5.0m、東西 5.2m の方形プランで、本調査区では最も規模の大きいものである。カマド及び柱穴等は確認できなかった。(第 13 図・第 17 図 -13~22)
- SI5: 調査区東壁で検出。東側は調査区外に延びる。南北 3.5m、東西 3.5m の方形プラン。柱穴等は確認できなかった。南東隅に煙道とみられる掘り込みが伴うため、カマドは南東隅に設けられていたと考えられる。(第 13 図・第 18 図 -23~31)
- SI6: 調査区南東で検出。南北 5.8m、東西 4.0m の長方形プラン。カマド及び柱穴等は確認できなかった。上部は削平されている。(第 14 図・第 18~19 図 -32~38)
- SI7: 調査区南側中央で検出。南北 4.5m、東西 4.5m の隅丸方形プラン。柱穴等は確認できなかった。南壁中央に煙道とみられる掘り込みが伴うため、カマドは南側中央に設けられていたと考えられる。(第 14 図・第 19 図 -39~44)
- SI8: 調査区中央で検出。SI9 を切る。南北 4.3m、東西 3.6m の長方形プラン。柱穴等は確認できなかった。南壁中央に煙道とみられる掘り込みが伴うため、カマドは南側中央に設けられていたと考えられる。(第 15 図・第 19 図 -45~48)
- SI9: 調査区中央で検出。SI8 に切られる。南北 4.3m、東西 3.0m の不整形な橢円形プラン。カマド及び柱穴等は確認できなかった。(第 15 図・第 19 図 -49~51)
- SI10: 調査区東側中央で検出。南北 3.3m、東西 4.6m の方形プラン。カマド及び柱穴等は確認できなかった。(第 16 図・第 19 図 -52~55)
- SI11: 調査区東側中央で検出。南北 5.1m、東西 3.6m の不整形な長方形プラン。中央から南側は 1 段高いテラス状となる。カマド及び柱穴等は確認できなかった。(第 16 図・第 20 図 -56~64)

#### 道路状遺構

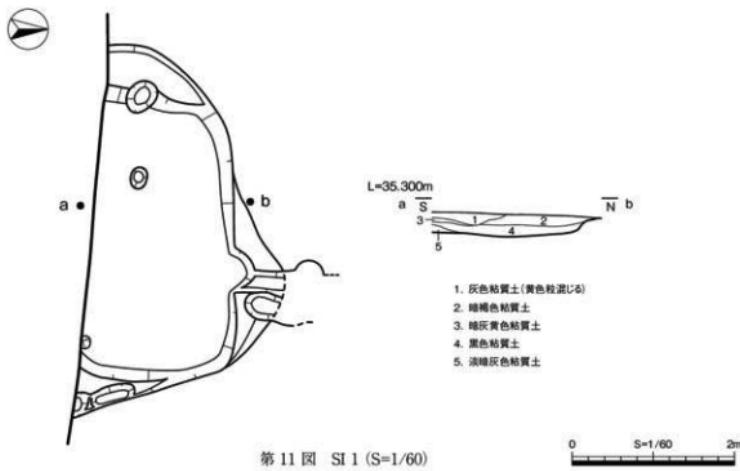
調査区北側で北東から南西方向にやや蛇行しつつ平行に延びる 2 条の溝状の遺構を検出した。溝の間は遺構が希薄であつたため、調査担当者は軽部と評価し検査を行ったのみで調査を終了した。その後、第 16 次調査で北東から南西方向に延びる道路状遺構が検出され、その西側延長部分がこの溝に当たることから、本報告書作成段階で道路状遺構の可能性があると判明した。上記の経緯のため詳細な図面を欠き、溝の深さや幅などは不明である。

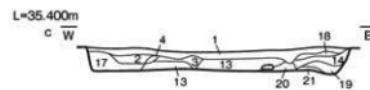
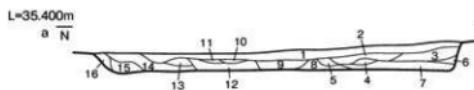
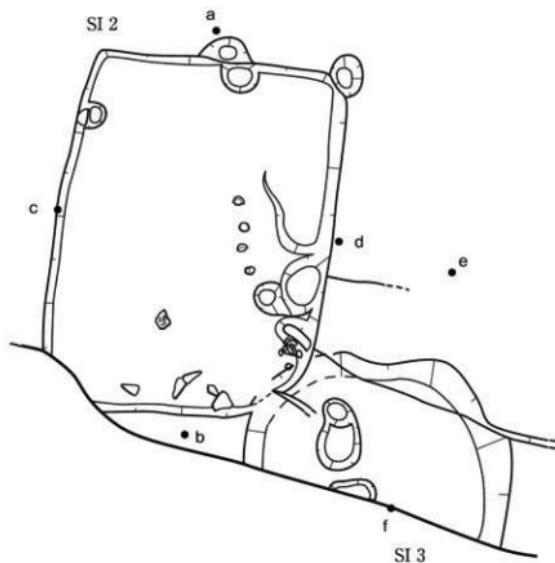
#### 第 2 節 遺物

出土した遺物はパンケース 15 箱分である。土器類は概ね 8 世紀後半に属するものである。実測図は堅穴建物から出土した遺物のみ掲載した。このほか、土鍤が 11 点出土していることが特筆すべき点である。

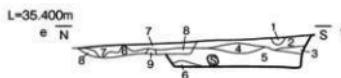
#### 第 3 節 小結

本調査区では堅穴建物 11 棟を検出した。栗田遺跡の中では第 8 次調査と並び古代の堅穴建物が集中している調査区である。他の調査区では堅穴建物と掘立柱建物が数棟ずつ点在する様相がみられるが、本調査区では掘立柱建物は確認できなかった。道路状遺構については可能性の範囲で言及するにとどまり、今後さらに西側の調査によって検証される必要がある。





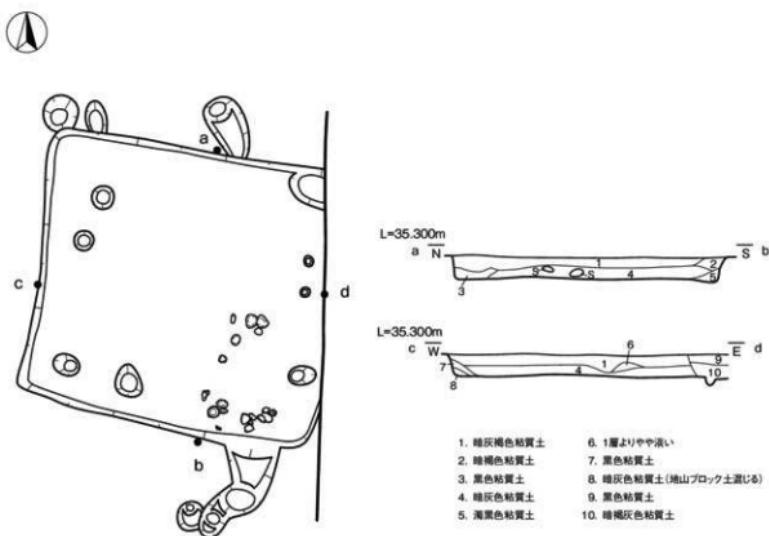
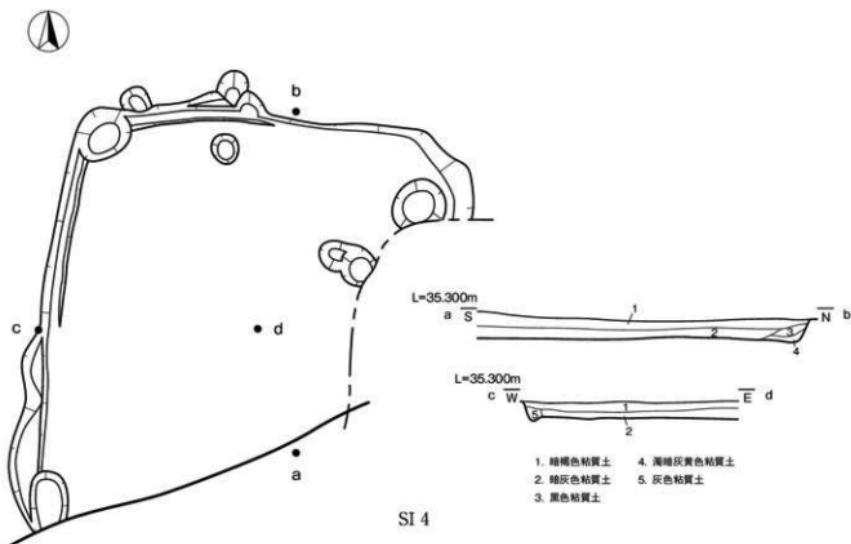
- |                       |                        |                       |
|-----------------------|------------------------|-----------------------|
| 1. 暗褐色粘質土             | 8. 濃緑灰色粘質土(黄色ブロック土混じる) | 15. 黒色粘質土(黄色ブロック土混じる) |
| 2. 暗褐色粘質土             | 9. 濃緑灰色粘質土             | 16. 淡青褐色粘質土(ビット裡土)    |
| 3. 暗褐色粘質土(黄色ブロック土混じる) | 10. 3層と同じ              | 17. 灰色粘質土             |
| 4. 暗黄褐色粘質土            | 11. 黒色粘質土              | 18. 3層と同じ             |
| 5. 暗灰色粘質土             | 12. 9層と同じでやや明るい        | 19. 5層と同じ             |
| 6. 4層と同じ              | 13. 濃淡褐色粘質土            | 20. 1層と同じでやや浅い        |
| 7. 1層と同じでやや黒い         | 14. 濃灰色粘質土             | 21. 濃黄灰色粘質土           |



- |                        |            |
|------------------------|------------|
| 1. 淡黃色ブロック土            | 6. 濃黄灰色粘質土 |
| 2. 暗褐色粘質土              | 7. 灰褐色粘質土  |
| 3. 濃黃色粘質土(暗灰色ブロック土混じる) | 8. 濃黃灰色粘質土 |
| 4. 暗褐色粘質土              | 9. 黒色ブロック土 |
| 5. 暗灰色粘質土              |            |

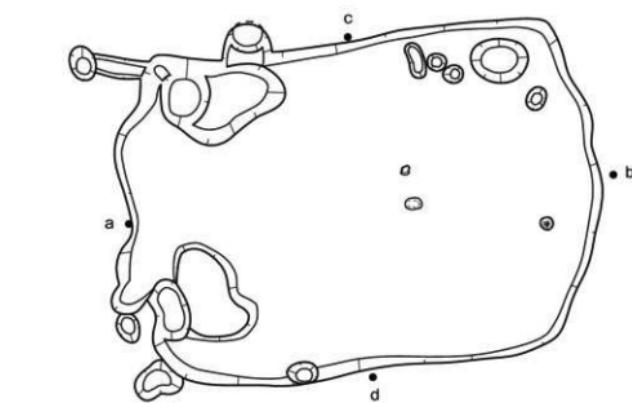
第 12 図 SI 2-3 (S=1/60)

0 5-1/60 2m

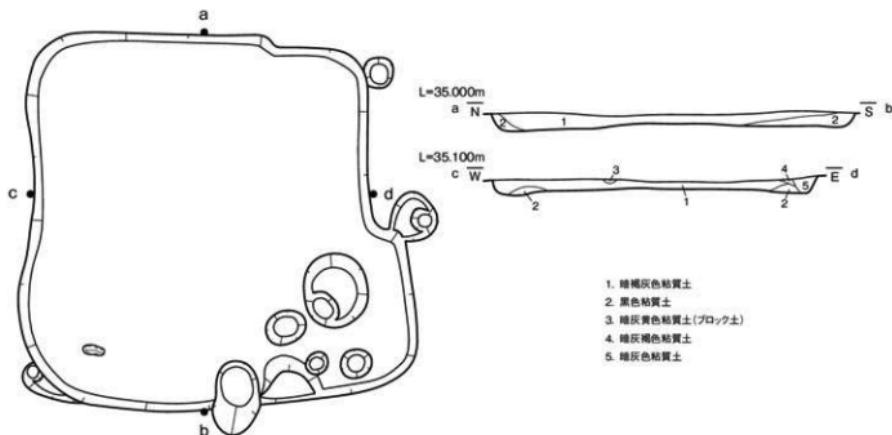


第 13 図 SI 4-5 (S=1/60)

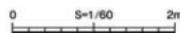


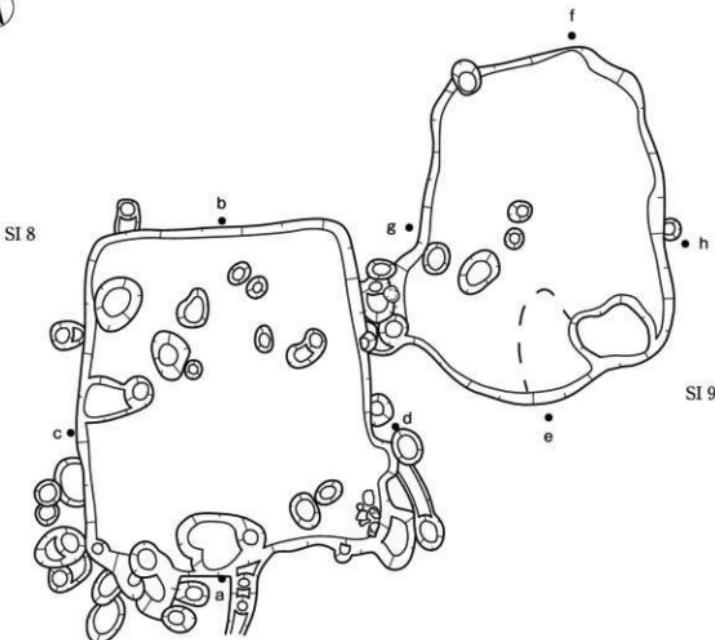


1. 暗灰褐色粘質土
2. 淡黃色粘質土
3. 棕色粘質土
4. 灰褐色粘質土
5. 暗灰色粘質土
6. 黑色粘質土



第 14 図 SI 6-7 (S=1/60)





L=35.200m



L=35.200m



- |            |                  |             |
|------------|------------------|-------------|
| 1. 深灰色粘質土  | 5. 暗灰色粘質土        | 9. 黑色粘質土    |
| 2. 暗褐色粘質土  | 6. 深暗褐色粘質土       | 10. 黄褐色粘質土  |
| 3. 暗褐色灰粘質土 | 7. 深褐色粘質土        | 11. 明褐色粘質土  |
| 4. 暗灰色粘質土  | 8. 暗灰色粘質土(埴土混じる) | 12. 淡黄褐色粘質土 |

L=35.200m



L=35.200m

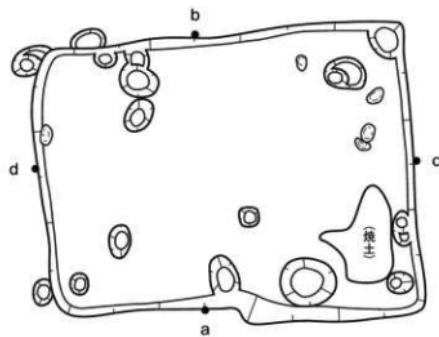
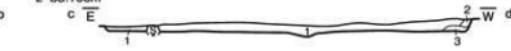


- |                         |
|-------------------------|
| 1. 黒色粘質土                |
| 2. 暗灰色粘質土               |
| 3. 深暗灰黃色粘質土             |
| 4. 深暗灰黃色粘質土(黄色ブロック土混じる) |

第 15 図 SI 8-9 (S=1/60)

0 5-1/60 2m

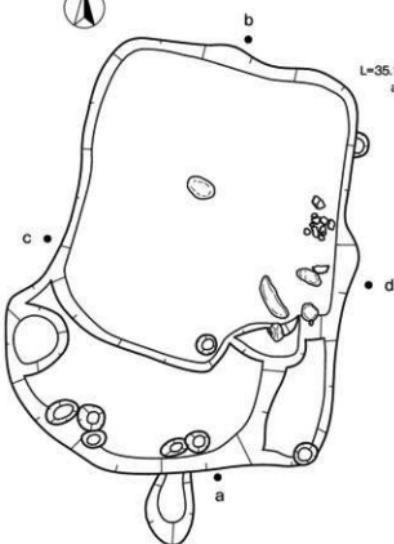
Ⓐ

 $L=35.100m$  $L=35.100m$ 

1. 緑灰色粘質土
2. 緑灰色粘質土(黄色ブロック土混じる)
3. 黒色粘質土(黄色ブロック土混じる)

SI 10

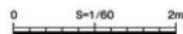
Ⓑ

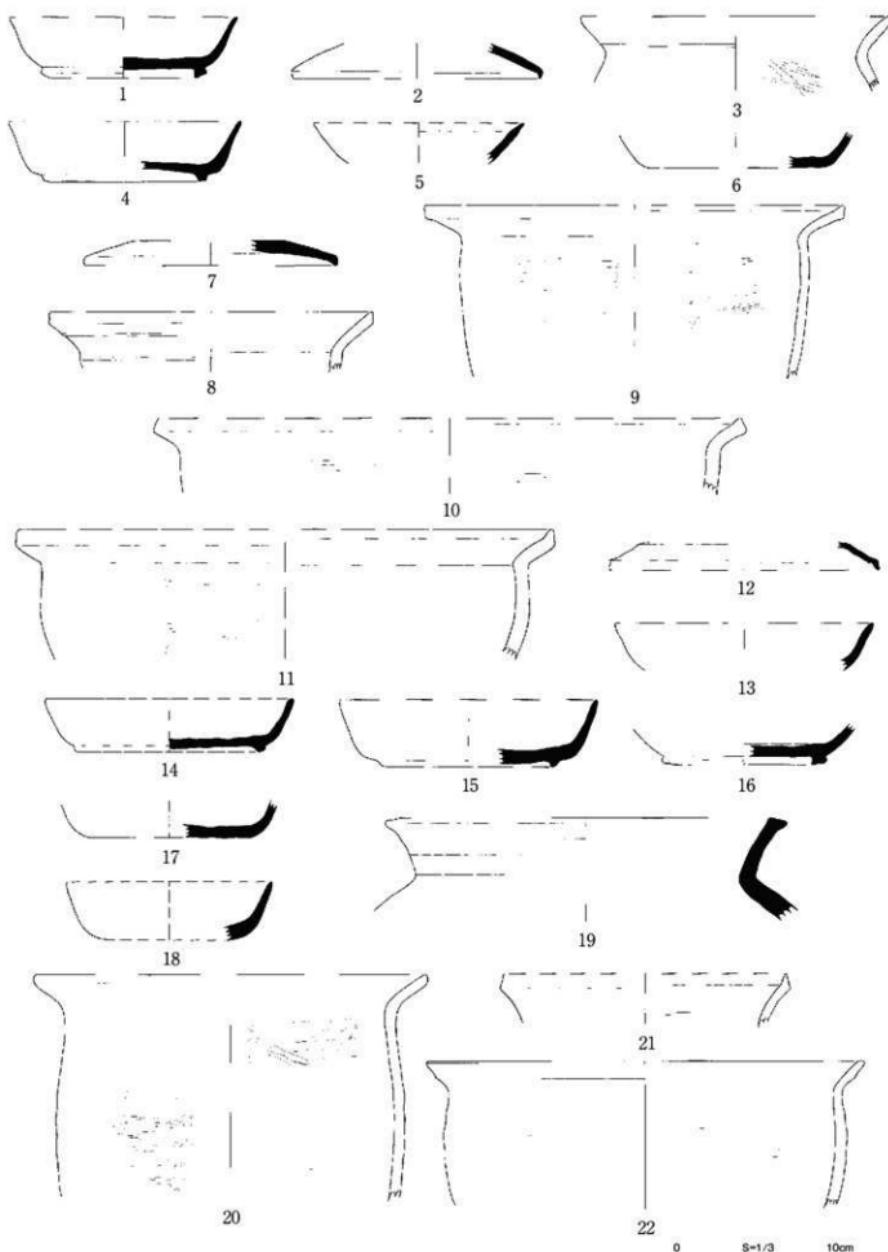
 $L=35.100m$  $L=35.000m$ 

1. 棕灰色粘質土
2. 緑灰色粘質土
3. 黒色粘質土(黄色ブロック土混じる)
4. 黒褐色粘質土
5. 黑色粘質土
6. 緑灰褐色粘質土
7. 灰色粘質土(黄褐色互層)
8. 黑灰色粘質土
9. 棕色粘質土
10. 深緑灰色粘質土
11. 3層と同じ
12. 5層と同じ
13. 淡黃色粘質土(緑灰色ブロック土混じる)
14. 淡黃色粘質土(緑灰色ブロック土混じる)

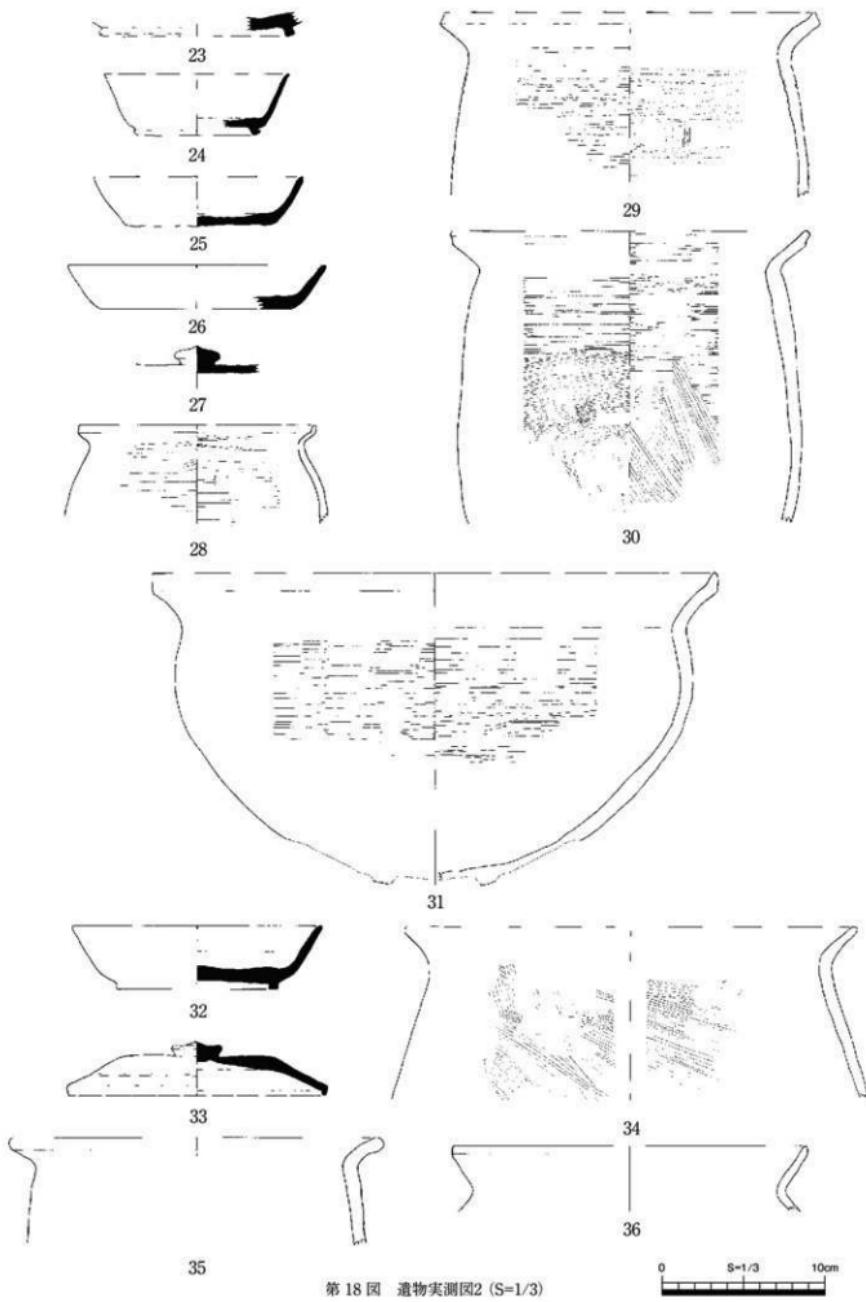
SI 11

第 16 図 SI 10-11 (S=1/60)

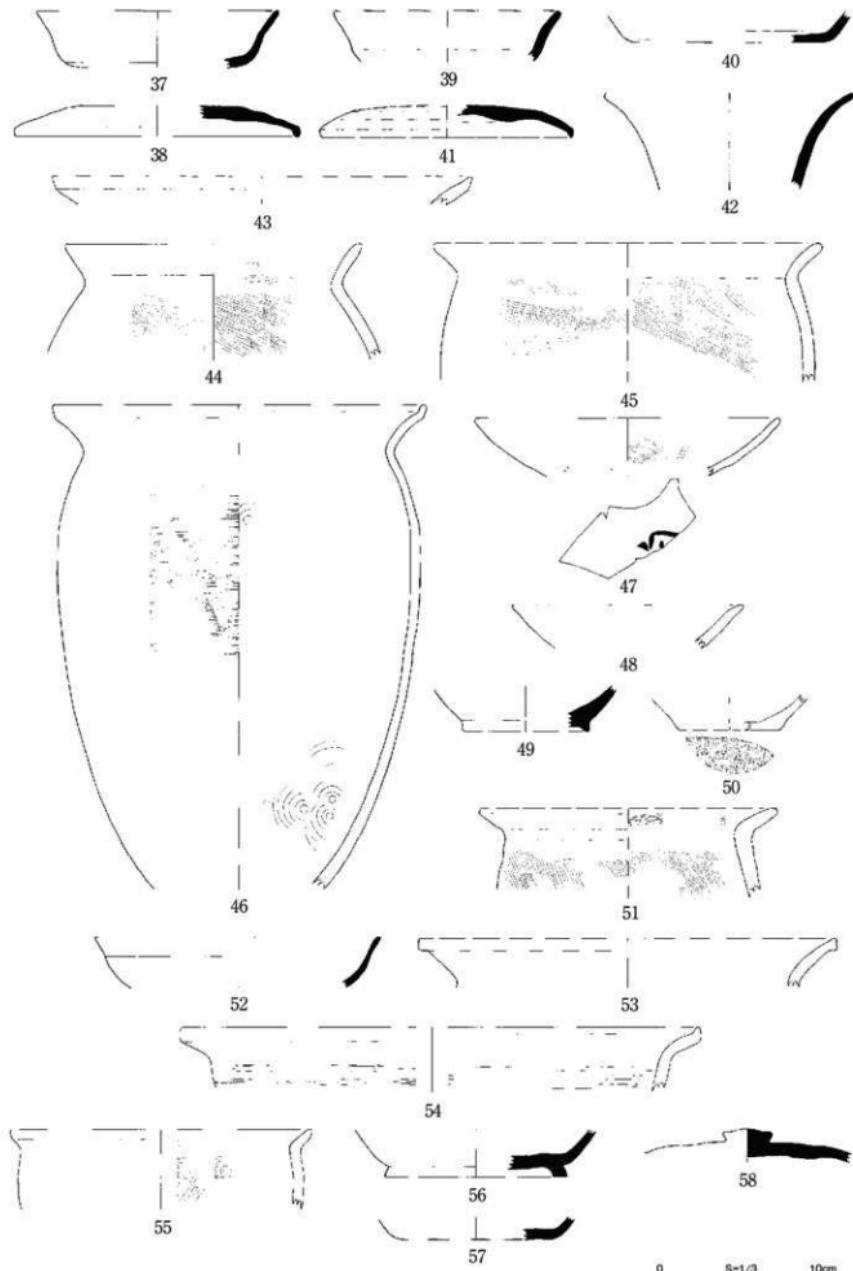




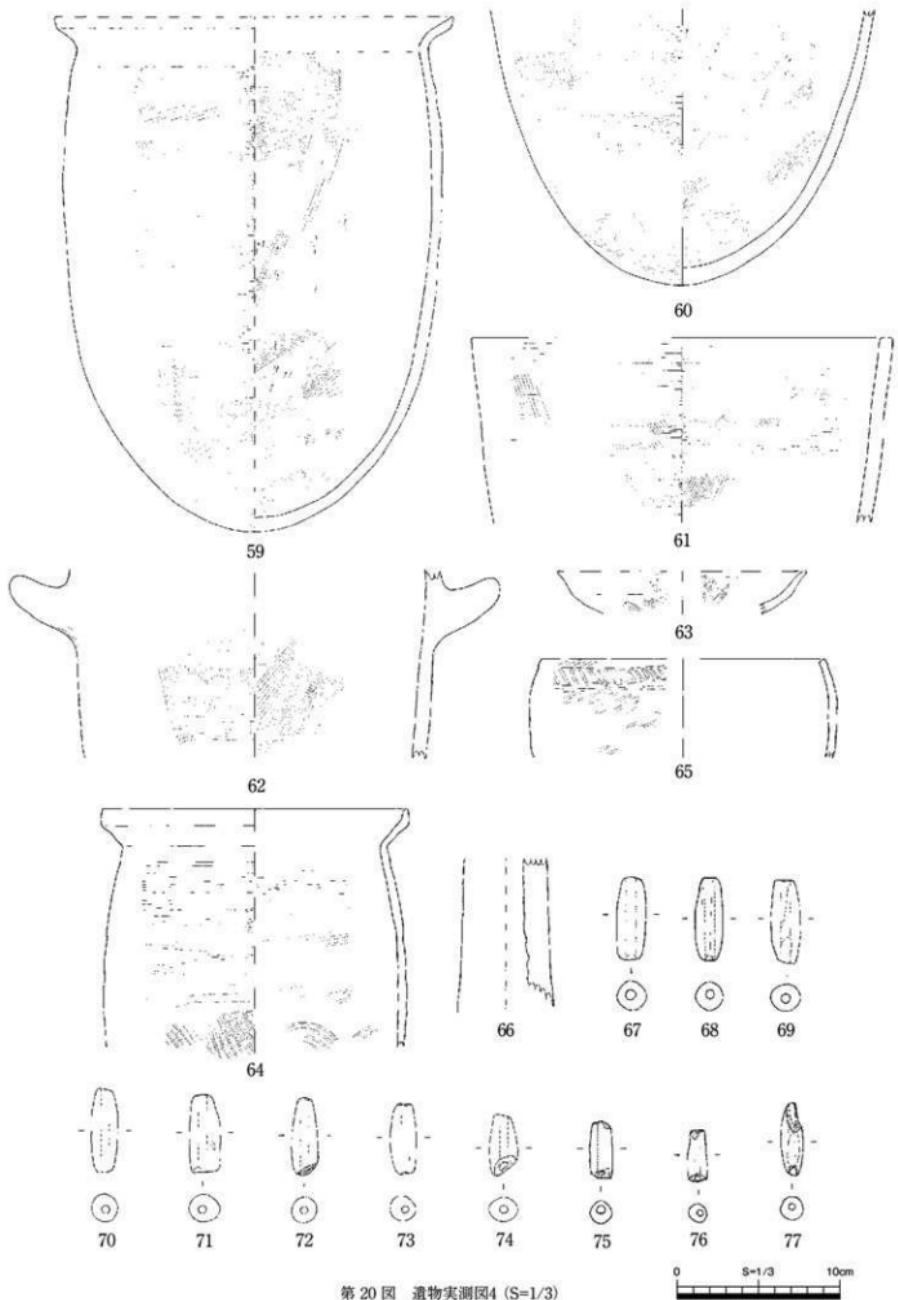
第17図 遺物実測図1 (S=1/3)



第18図 遺物実測図2 (S=1/3)



第19図 遺物実測図3 (S=1/3)



第20図 遺物実測図4 (S=1/3)

第3表 第4次土器観察表

番号	造構	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整(外)		残存率	備考	実測番号
						調整(内)	色調(内)			
1	SI 1	須恵器 有台环	140	38	高台径 88	ヨコナデ	灰	口縁1/4 底部定形		H 1
						ヨコナデ	淡灰			
2	SI 1	須恵器 蓋	(15.3)			ナデ	灰	1/9		H 2
						ナデ	淡灰			
3	SI 1	土師器 甕	19.0	頸部径 16.2		ナデ	にぶい橙	1/5		H 1
						ナデ、ハケ目	にぶい橙			
4	SI 2	須恵器 有台环	14.4	37.5	高台径 10.1	ナデ	暗青灰	口縁1/4 底部3/4		H 6
						ナデ	灰			
5	SI 2	須恵器 环	13.0			ナデ	灰	1/8		H 5
						ナデ	灰			
6	SI 2	須恵器 环			11.6	ナデ	灰	1/4	底部へラ切り	H 4
						ナデ	灰			
7	SI 2	須恵器 蓋	15.6			ナデ	灰	1/4	外面に釉	H 3
						ナデ	淡灰			
8	SI 2 ビット	土師器 甕	(19.9)			ナデ	淡橙褐	1/10		H 3
						ナデ	淡橙褐			
9	SI 2	土師器 甕	(26.0)	頸部径 (21.4)		ナデ、カキメ	淡黄褐	小片		H 5
						カキメ	橙褐			
10	SI 2	土師器 鍋	(36.0)	頸部径 (33.6)		ナデ、カキメ	淡褐	小片	外面に煤	H 4
						ナデ、カキメ	淡褐			
11	SI 2	土師器 鍋	(32.8)	頸部径 (30.3)		ナデ、カキメ	淡灰	1/12		H 6
						ナデ	淡橙褐、暗褐			
12	SI 3	須恵器 蓋	(16.6)			ナデ	暗灰	1/12		H 7
						ナデ	灰			
13	SI 4	須恵器 环	(15.8)			ナデ	灰	1/10	重ね燒き	H 14
						ナデ	淡灰			
14	SI 4 ビット	須恵器 有台环	15.2	33	11.8	ナデ	暗灰	口縁1/3 底部3/4		H 11
						ナデ	灰			
15	SI 4	須恵器 有台环	15.8	41.5	高台径 10.8	ナデ	灰	1/4		H 10
						ナデ	灰			
16	SI 4	須恵器 有台环			高台径 10.1	ナデ	暗灰	1/2		H 9
						ナデ	灰			
17	SI 4	須恵器 环			10.2	ナデ	淡灰	1/2	底部へラ切り	H 12
						ナデ	淡灰			
18	SI 4	須恵器 环	12.6	36	9.6	ナデ	褐灰	1/6	底部へラ切り	H 13
						ナデ	にぶい橙			
19	SI 4	須恵器 甕	24.8	頸部径 21.0		ナデ	褐灰	1/4		H 8
						ナデ	褐灰			
20	SI 4	土師器 甕	24.0	頸部径 10.5		ナデ、ハケ目	淡橙褐、暗褐、淡黄褐	1/3	粘土組の痕残る	H 10
						ナデ、ハケ目	淡橙褐、淡黄褐			
21	SI 4	土師器 甕	(17.4)			ナデ	橙	小片		H 9
						ナデ	淡橙褐			
22	SI 4	土師器 鍋	26.8	頸部径 24.3		ナデ	淡橙褐	1/7		H 8
						カキメ	淡橙褐			
23	SI 5	須恵器 有台环			高台径 (12.1)	ナデ	褐灰	1/12		H 18
						ナデ	褐灰			
24	SI 5 床面	須恵器 有台环	11.3	38	高台径 7.8	ナデ	暗青灰	1/3	底部へラ切り	H 15
						ナデ	淡青灰			
25	SI 5	須恵器 环	12.8	31	9.0	ナデ	灰白	完形	底部へラ切り	H 16
						ナデ	灰白			
26	SI 5	須恵器 环	15.9	27	11.8	ナデ	灰白	底部1/7	底部へラ切り	H 17
						ナデ	灰白			

第3表 第4次土器観察表

番号	遺構	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整(外)		残存率	備考	実測番号
						調整(内)	色調(内)			
27	SI 5	須恵器 蓋		つまみ径 28		ナデ	淡青灰	つまみ 1/2		H 19
						ナデ	淡青灰			
28	SI 5	土師器 甕	14.6	頸部径 13.2		ナデ、カキメ	茶褐色	1/7		I 1
						ナデ、ハケ目、カキメ	淡青灰			
29	SI 5	土師器 甕	22.8	頸部径 20.0		ナデ、カキメ	淡青灰	1/8	頸部内面煤付着	I 2
						ナデ	淡青灰			
30	SI 5	土師器 甕	21.9	頸部径 18.5		ナデ、カキメ、ケズリ	淡青灰	1/10		I 3
						カキメ、ハケ	淡青灰			
31	SI 5 床面	土師器 鍋	34.8	頸部径 31.2		ナデ、カキメ、タタキ	淡青灰	1/7		I 4
						ナデ、カキメ、タタキ	淡青灰			
32	SI 6	須恵器 有白环	15.4	39	高台径 9.8	ナデ	淡灰	口縁 1/4 底部 1/2		H 21
						ナデ	淡青灰			
33	SI 6	須恵器 蓋	15.9	33	つまみ径 3.1	ナデ	淡青灰	完形	外腹天井部ヘラ削り	H 20
						ナデ	淡青灰			
34	SI 6	土師器 甕	(27.6)	頸部径 (24.8)		ナデ、ハケ	暗褐	1/18		I 7
						ナデ、ハケ	暗褐			
35	SI 6	土師器 甕	(21.6)	頸部径 (19.3)		ナデ	暗褐	1/6	内外面摩耗	I 6
						ナデ	暗褐			
36	SI 6	土師器 甕	(21.6)	頸部径 (19.3)		ナデ	暗褐	1/10	部分的に摩耗	I 5
						ナデ	暗褐			
37	SI 6	須恵器 环	14.8			ナデ	淡灰	1/8		I 11
						ナデ	淡灰			
38	SI 6	須恵器 蓋	(17.4)			ナデ、ケズリ	暗灰	端部 1/18 最大部 1/5		I 12
						ナデ、ケズリ	暗灰			
39	SI 7	須恵器 环	13.8			ナデ	淡灰	1/7		I 11
						ナデ	淡灰			
40	SI 7	須恵器 环			(11.6)	ナデ	淡灰	1/10		I 12
						ナデ	灰			
41	SI 7 ビット	須恵器 蓋	15.2			ナデ、ケズリ	灰	1/3		I 14
						ナデ	淡灰			
42	SI 7	須恵器 長颈甕	15.3			ナデ	青灰	1/4	内面自然輪付着	I 13
						ナデ	青灰			
43	SI 7	土師器 甕	25.9			ナデ	淡青灰	1/16	外腹に煤 海綿骨針	O 1
						ナデ	淡青灰			
44	SI 7	土師器 甕	18.1	頸部径 15.9		ナデ、ハケ	暗褐	1/7	外腹に煤 海綿骨針	O 2
						ナデ、ハケ	暗褐			
45	SI 8	土師器 甕	23.7	頸部径 21.0	頸部径 23.0	ナデ、ハケ	暗褐	1/8	海綿骨針	O 3
						ナデ、ハケ	暗褐			
46	SI 8	土師器 甕	22.8	頸部径 19.2	体部径 22.4	ナデ、ハケ	暗褐、暗青	1/6	外腹に煤	O 4
						ナデ、タタキ	淡暗褐、暗褐			
47	SI 8	土師器 甕	(18.7)			ナデ、ケズリ	暗褐	1/6	黒色土器、海綿骨針 外腹に墨渦	O 1
						ミガキ、ナデ	黑褐			
48	SI 8	土師器 甕	14.2			ナデ	褐	1/12	海綿骨針	O 2
						ナデ、ミガキ	黑褐			
49	SI 9	須恵器 蓋		有白径 7.8		ナデ	灰	小片	体部底部に煤	I 11
						ナデ	灰			
50	SI 9	土師器 甕			6.2	ナデ	淡赤橙	1/3	底面に糸切跡痕	O 2
						ナデ	黑褐			
51	SI 9	土師器 甕	18.2	頸部径 15.2		ナデ、ハケ	橙	1/5		O 1
						ハケ	橙			
52	SI 10	須恵器 甕	(17.6)			ナデ	暗灰	1/9		I 11
						ナデ	灰			

第3表 第4次土器観察表

番号	造構	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整(外)		残存率	備考	実測番号
						調整(内)	色調(内)			
53	SI 10 土師器 甕		25.7	頸部径 21.1		ナデ	にじい橙	1/13	外面に煤	O 1
						ナデ	にじい橙			
54	SI 10 土師器 甕		32.0	頸部径 28.4		ナデ	暗褐	1/25		O 2
						ナデ、ハケ	暗褐			
55	SI 10 土師器 甕		18.5	頸部径 17.2		ナデ	淡褐	1/14		O 3
						ハケ	棕			
56	SI 11 床面 环				9.0	ナデ	淡灰	1/5	ヘラ切刃	I 3
						ナデ	淡灰			
57	SI 11 床面 有台环		11.0			ナデ	灰	1/5	ヘラ切刃	I 2
						ナデ	灰			
58	SI 11 床面 甕					ナデ	暗灰	つまみ部 完形		I 1
						ナデ	暗灰			
59	SI 11 土師器 甕		24.5	頸部径 21.65	体部径 23.4	ナデ、ハケ	暗褐、褐	口縁 1/2 底部 完形	底部丸底 外前に煤	O 5
						ナデ、ハケ、ケズリ	暗褐、褐			
60	SI 11 pit 甕					ハケ	暗褐	胸部 1/3 底部 完形	外前に煤	O 4
						ハケ、ケズリ	暗褐			
61	SI 11 土師器 瓶		25.9			ハケ	淡褐、褐	1/7	内前に煤	O 2
						ハケ	淡褐、暗褐			
62	SI 11 土師器 持ち手つき瓶			体部径 21.7		ハケ	暗褐	1/5	外前に煤	O 3
						ナデ	暗褐			
63	SI 11 テラス		15.3			ナデ、ミガキ	赤彩	1/20	海綿骨針 内外面赤彩	O 1
						ナデ、ミガキ	赤彩			
64	包含層					カキメ、タタキ	にじい橙	口縁部 1/3 頸部 1/3	体部5/6 外前に煤	H 6
						ナデ、カキメ、タタキ	にじい橙			
65	SI 1 绳文土器 鉢		(16.4)				淡褐	小片 1/9		H 2
						淡褐				

第4表 第4次土製品観察表

番号	造構	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	色調	備考	実測番号
66	SI 2	輪羽口	5.8		2.9		淡褐		H 7
67	SI 6	土鍤	5.1	1.8	6.0	1.8	淡褐	全体的に摩耗	I 1
68	SI 9	土鍤	5.1	1.7	5.0	13.1	淡褐	全体的に摩耗	I 3
69	SI 9	土鍤	5.1	1.8	5.0	14.5	淡褐	全体的に摩耗	I 2
70	SI 10	土鍤	5.25	1.7	5.0	11.6	淡褐	海綿骨針	O 8
71	SI 10	土鍤	4.8	1.95	5.0	16.15	淡褐	海綿骨針	O 9
72	SI 10	土鍤	4.7	1.6	5.0	8.8	淡褐	海綿骨針	O 10
73	SI 10	土鍤	4.4	1.6	5.0	8.5	淡褐	海面骨針	O 11
74	SI 10	土鍤	3.8	1.8	5.0	6.9	淡褐	海面骨針	O 12
75	SI 11 テラス	土鍤	3.5	1.4	5.0	6.1	淡茶褐		I 5
76	SI 11 テラス	土鍤	3.2	1.2	4.0	3.9	棕褐		I 6
77	SI 11 テラス	土鍤	4.5	1.4	4.0	5.8	淡茶褐		I 4

## 第5章 第5次調査

### 第1節 遺構

検出した主な遺構は竪穴建物2棟、掘立柱建物9棟、土坑、溝、多数のピットなどである。検出した遺構の大半は古代に属する。遺構は調査区の中央と東側に概ね分かれて集中しており、SB1・2・9のほかは、調査区東側に集中している。

#### 竪穴建物

- SII：建物の東側及び南側の一部は搅乱を受けていたが、建物全体の検出をした。建物主軸は5度西に振り、規模は東西約4m、南北約4.5mである。床面までの深さは遺構検出面から約15cmである。建物南東部では焼土痕や赤みを帯びた覆土が確認され、カマド跡と考えられる。8世紀後半頃の遺物（第30図-1~3）が出土している。その他、団化はできなかつたが、一部煤の付着した土師器壺片などが出土している。（第22図）
- SI2：建物東側は調査区外へ伸びていくため全体検出はできなかつたが、南北約4.5mを測り、建物主軸は13度西に振る。深さは約10cmである。SIIと規模及び形状が似るため、同規模の建物であったと推定される。建物の床面では、焼土痕が調査区外にまたがるようにして検出されている。出土遺物（第30図-4~7）より、8世紀中頃から後半の建物であると考えられる。（第22図）

#### 掘立柱建物

- SB1：東西3間、南北1間の東西に長い側柱建物である。柱間は東西方向で約1.8~2.0m、南北方向で3.2mあり、建物主軸は2度西に振る。柱穴掘方の形状は円形や隅丸方形など様々であるが、規模は平均して大きさ50cm、深さ40cm程度である。遺物は土師器の小片のみが出土している。（第23図）
- SB2：SB1から南東10mに位置する2間の縦柱建物である。柱間は1~1.5mと列によってばらつきがあるが、建物自体は1辺3.5mの正方形を呈しており、主軸は真北を向く。柱穴の大半は側柱で大きさ70cm四方の隅丸方形をしており、深さは50cm前後である。中央柱穴のみ他よりも規模が小さく、径40cm、深さ8cmの円形である。遺物は土師器片が出土しているのみである。（第23図）
- SB3：調査区北側に位置し、北東隅柱の一部が調査区外へ伸びているが、東西及び南北2間の側柱建物である。柱間は2.0~2.5mのばらつきがあり、深さも40~80cmと穴によって異なる。建物主軸は9度西である。建物自体は一辺約5mの正方形を呈している。なお、柱穴P19からは球胴形の須恵器壺の体部（第30図-14）、南東隅柱P20からは9世紀後半頃の土師器壺（同15）を始め、団化はできなかつたが、多量の須恵器及び土師器の破片が出土している。前述したSIIを切っており、SIIの廃絶後、9世紀後半以降に造られたと考えられる。（第24図）
- SB4：SB3から南2mに位置し、南北4cm、東西3.5mの2間縦柱建物である。柱間は2m毎に配置され、柱穴掘方は大きさ約40~50cm、深さ20~60cmである。北西隅柱からは少量の土器片と共に須恵器壺（第30図-17）が出土している。建物主軸は10度西である。（第24図）
- SB5：SB3の東3mに位置し、西側及び南側柱列を検出した。建物は調査区外へ伸びている。東西2間以上、南北3間以上の建物と推定される。柱の間隔は均等に約2mである。柱穴掘方は東西列で径及び深さ40cmのものがあるに対し、南北列の穴は、深さが同じであるものの大きさ80cmの隅丸方形を呈するなど、様相が異なる。柱穴がSI2を切っているため、時期はSI2よりも新しい。またSB5の建物主軸がSB4と同じ10度西であることから、同時期の建物である可能性が高い。復元した柱穴からの出土遺物はないが、切り合うP18からは多量の土師器壺の破片が出土している。（第25図）
- SB6：北側柱列の一部がSB5の南側柱列に接し、重複するような形で検出した。東西3間、南北3間を確認し、東西柱列はそれぞれ調査区外へ伸びていくものと推定される。このため東西に長い構造と考えられる。南側柱列は、搅乱を受けているため2間分のみを検出した。穴の大きさ約40~90cm、深さ約50~70cm、形状は様々で統一性がない。北側柱列の穴は不均等だが、それ以外の柱列ではほぼ1.8cm間隔で並んでいる。南北柱列の土層を観察したところ、柱の痕跡が確認できた。建物主軸は2度西に振る。本建物の柱穴の一つがSB5の南西隅柱を切っていることから、時期はSB5よりも新しい。遺物があまり出土しておらず、時期は不明である。（第25図）
- SB7：SB6の南1.5cmに近接し、建物全体の検出をした。東西3間、南北4間の大型掘立柱建物で、当調査で検出された中では最も大きい建物である。梁行は4.8m、桁行は8.8cm、柱間は梁行で約1.5m、桁行で2~2.5mを数える。柱穴掘方の大きさは小さいもので50cm、大きいものでは120cmあり、全体的に一辺約60cmの方形を呈しているものが多い。深さは穴によって異なり、30~60cmとばらつきがある。建物主軸はSB6と同じである。土層断面及び掘り方からは柱の痕跡が確認できるものもある。団化はできなかつたが、柱穴数基から土師器壺と思われる破片が出土している。（第26図）



第21図 第5次調査全体図 (S=1/80)

- SB8:** 調査区南東隅にまたがっており、西側及び北側・南側柱列の一部を検出した。東西3間以上、南北3間を確認し、柱間は東西列では不均等であるのに対し、南北列では2.5m間隔で均等に並んでいる。東西列では柱穴の大きさ、深さ共にばらつきがあるが、南北列では大きさ、深さにそれ程大きな差は見られない。南北列の柱穴は深さ60～80cmを測る。建物主軸は6度西で、SB7よりも若干西に振る。なお、SB7とは建物ラインが重複しているものの柱穴同士の切り合いは認められず、また時期の明確な出土遺物がないため、本建物の造営時期及びSB7との新旧関係は不明である。(第27図)
- SB9:** SB2と重複する東西2間、南北1間の側柱建物である。東西約5.6m、南北約3.8mを測る。柱の形状は、南側が径50cm前後であるのに対し、北側は大きさ30cm程で南側の穴よりも小振りである。なお、深さはどれも30cm前後である。須恵器及び土師器の小片が1点ずつ出土している状態である。建物軸がSBIと同じ2度西に振ることから、同時期の建物である可能性が高い。(第27図)

#### 土坑

- SK1:** 調査区西端中央部で検出した大型土坑である。北西～南東方向に配置し、長辺約10.5m、短辺約3mの不整形な長楕円形を呈する。深さは最大で90cmを数える。土師器の小片数点と両面赤彩を施した土師器片1点が出土している。(第28図)

### 第2節 遺物

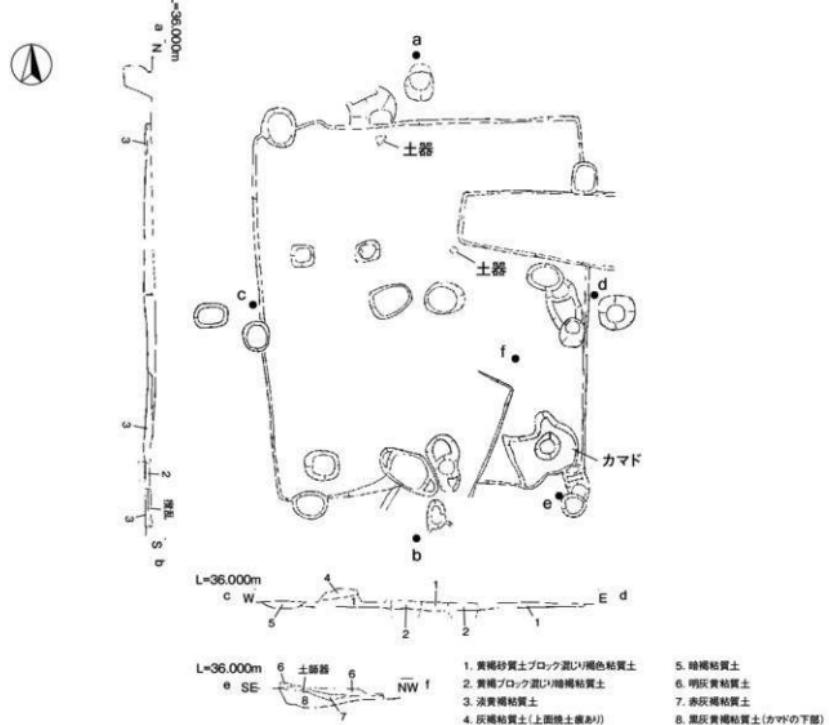
遺物は、主に土器と石製品である。出土した土器は古代のものが多い。特に造構及び包含層のものも含め、建物の密集している調査区東側から集中して出土している。土器で図化できたものは115点を数える。主に須恵器で、食膳具が圧倒的に多く、貯蔵具が散在している状況である。掘立柱建物の柱穴から出土し、時期の特定できる土器の数は少なく、建物の明確な造営時期を考える上で困難である。土師器については施を中心に、甕と鍋が出土している。なお、両面赤彩や内面黒色を施した壺も出土している。石製品で図化できたものは14点を数え、その内半数の7点は打製石斧である。その他磨石や敲石等が出土しており、中世以降の行火なども見られる。図化した石製品は、ピット出土のものが全体の半数を占める。以下、特筆すべき遺物を抽出して所見を述べる。なお、紙幅の関係上図化できたもののうち竪穴建物出土のものを掲載した。

1はSIIから出土した須恵器盤で、底部内面に墨痕と思われるものが残存していることから、転用硯と考えられる。底部はヘラ切りである。19は底部が完全に残っている壺で、底部外面に「七」の字が刻み書きされている。23は包含層より出土した土師器である。回転系切り痕をもつ無台壺であるが、その上に大きさ約4cm四方、深さ1mmの「大」の字が刻まれている。

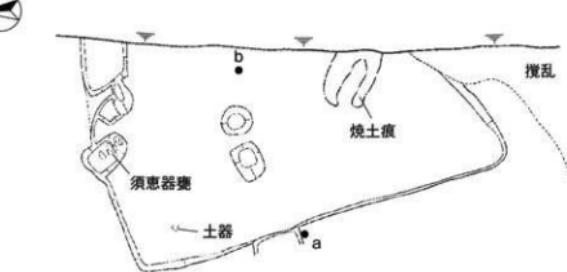
24は打製石斧で、石質は緑色凝灰岩である。出土した石斧の大半は基部や刃部だけが残存している。(第30・31図)

### 第3節 小結

本調査区は南に位置する第3次調査区と一連の建物群と考えられる。いずれも8世紀代と考えられる方形掘方の柱穴を持つ南北棟の大形掘立柱建物が存在しており、墨書き土器や箋書きを持つ土器が出土している点で共通する。



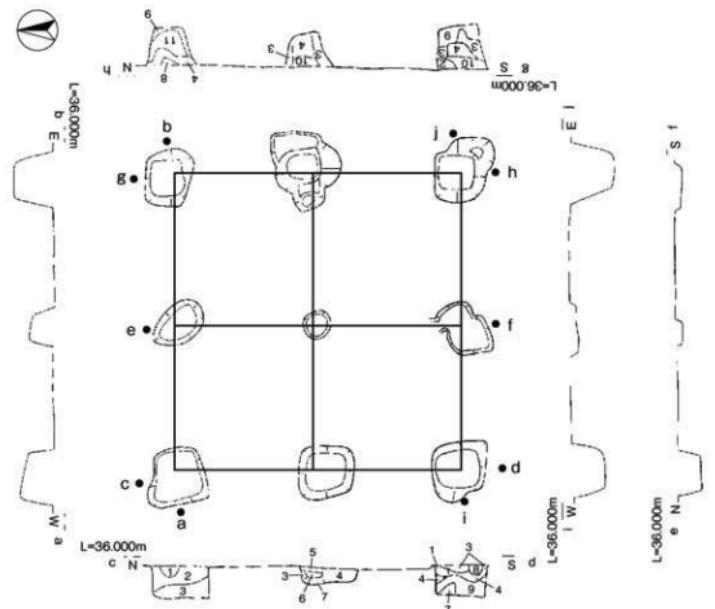
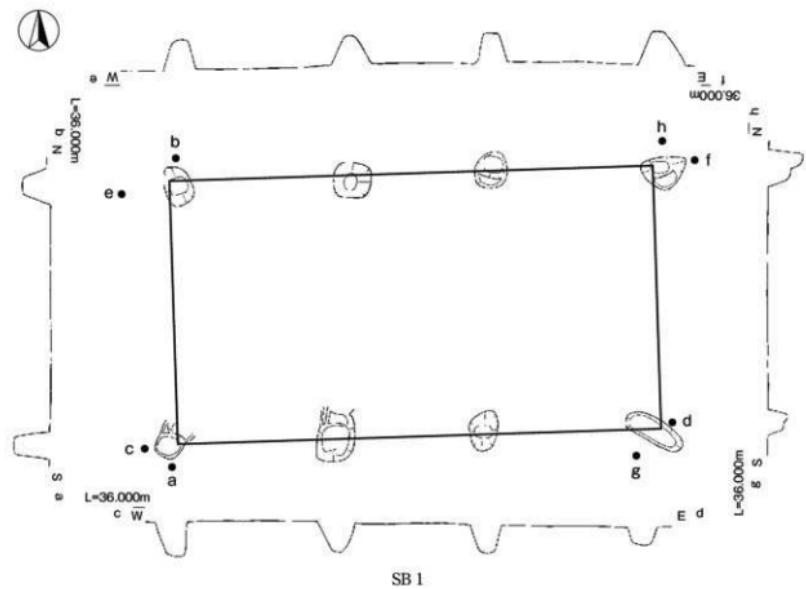
SI 1



SI 2

第 22 図 SI 1-2 (S=1/60)

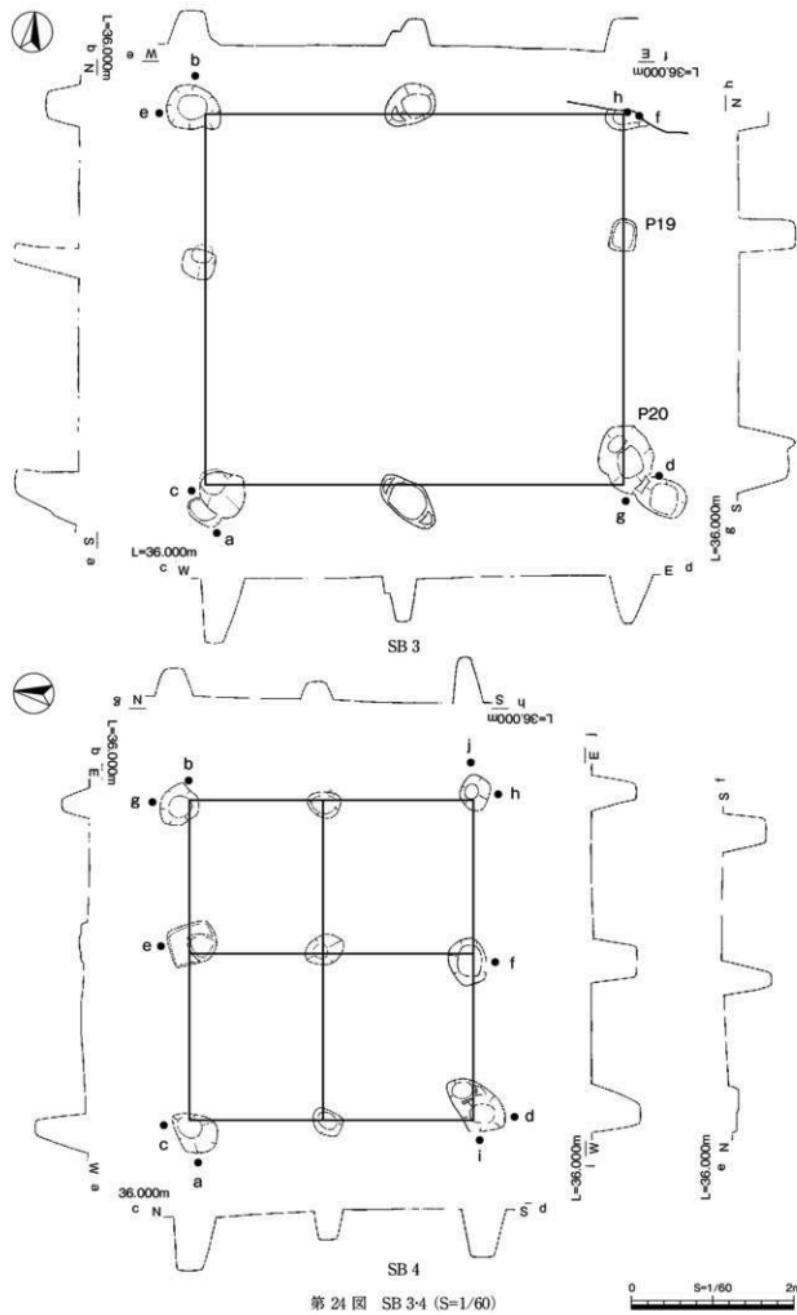




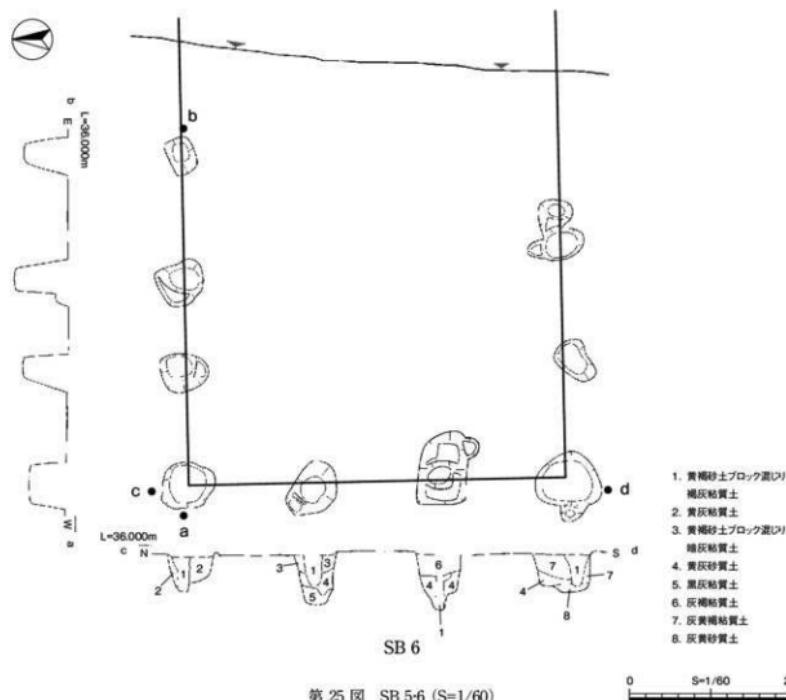
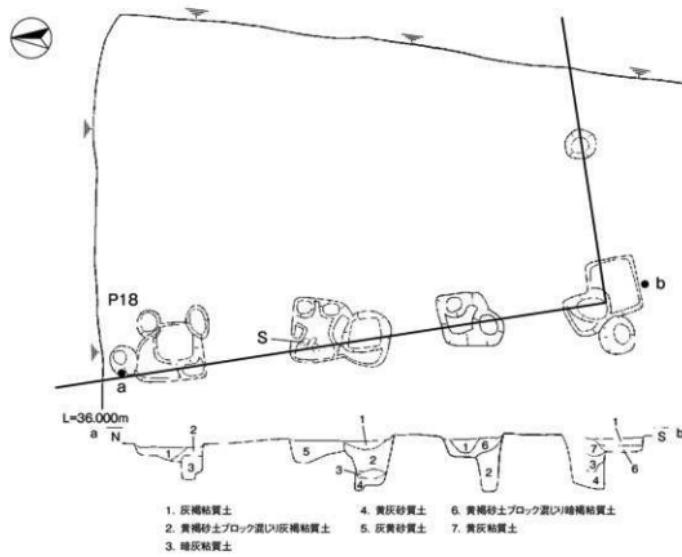
1. 雜灰粘質土層(U)  
淡灰粘質土
2. 淡灰粘質土
3. 黑褐粘質土
4. 灰黃褐粘質土
5. 黃灰褐粘質土
6. 黑灰黃褐粘質土
7. 黃灰砂質土
8. 雜灰補粘質土
9. 反黃砂質土
10. 暗色粘質土
11. 雜灰粘質土

第 23 図 SB 1-2 (S=1/60)

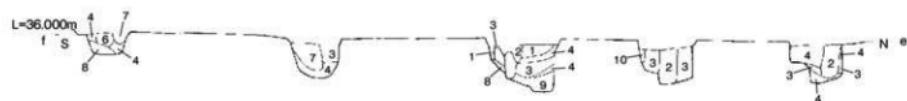
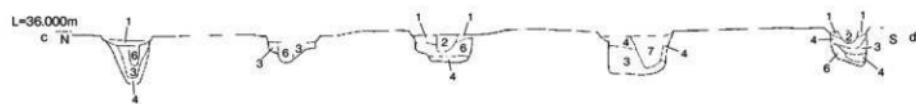
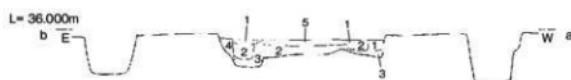
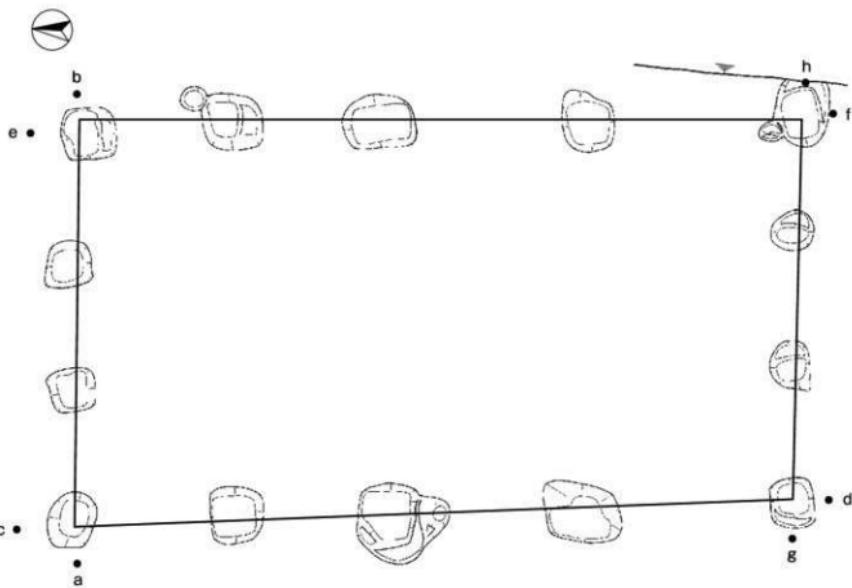
0 5-1/60 2m



第 24 図 SB 3-4 (S=1/60)



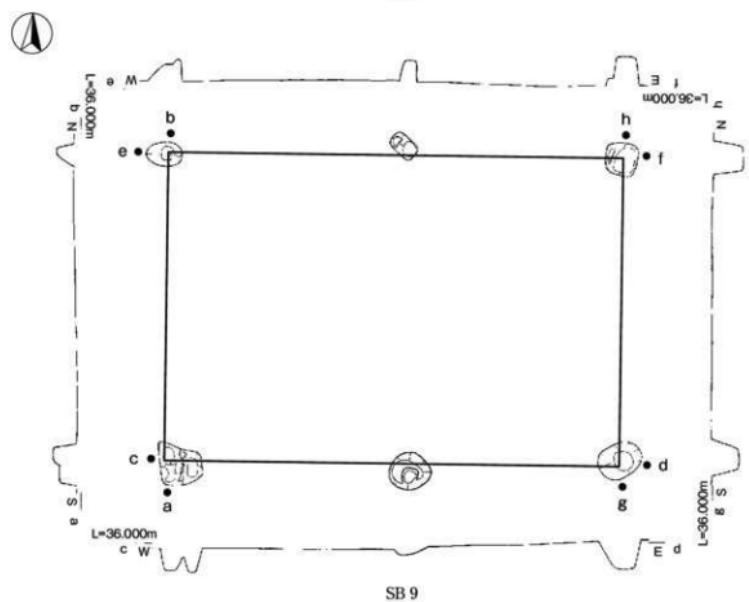
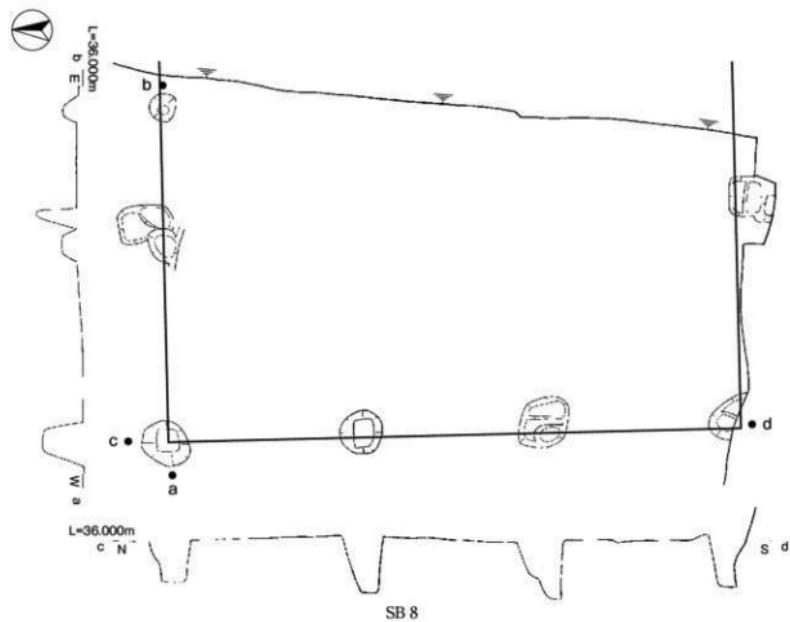
第 25 図 SB 5・6 (S=1/60)



- |           |           |
|-----------|-----------|
| 1. 黑灰褐粘質土 | 6. 細灰黃粘質土 |
| 2. 反灰粘質土  | 7. 淡灰黃粘質土 |
| 3. 雜灰粘質土  | 8. 黃灰粘質土  |
| 4. 反黃褐粘質土 | 9. 灰褐黃粘質土 |
| 5. 灰色粘質土  | 10. 明灰粘質土 |

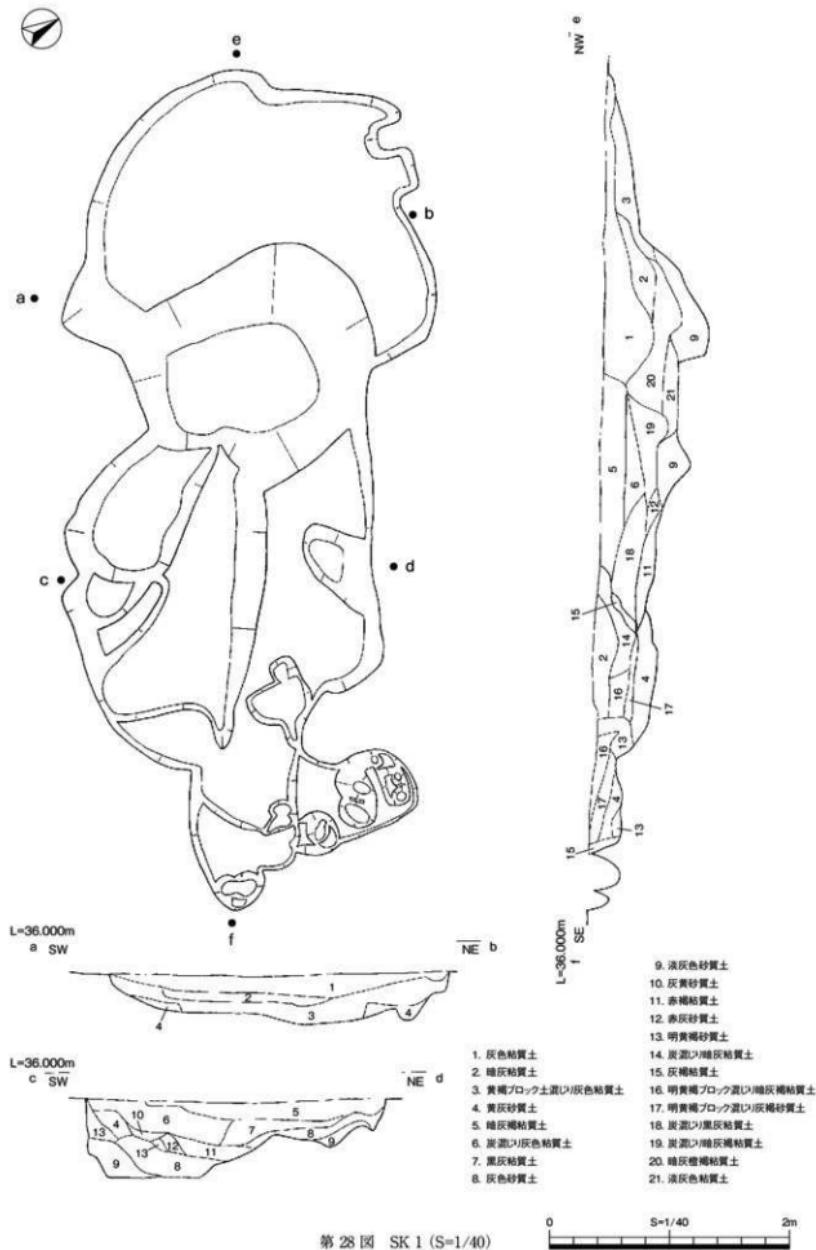
第 26 図 SB 7 (S=1/60)

0 5=1/60 2m

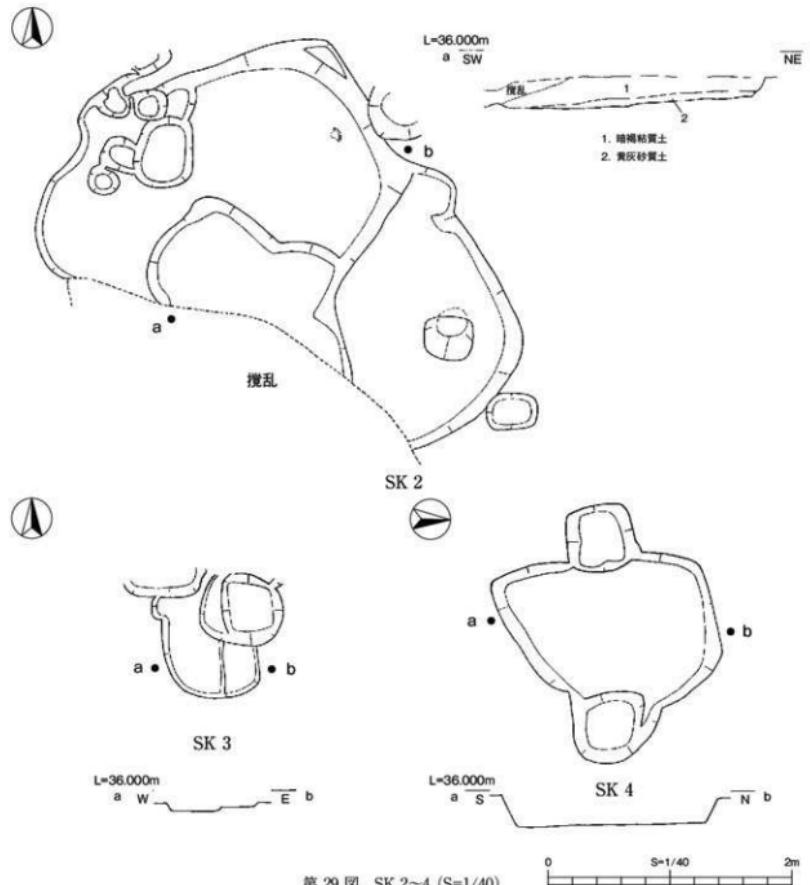


第 27 図 SB 8-9 (S=1/60)

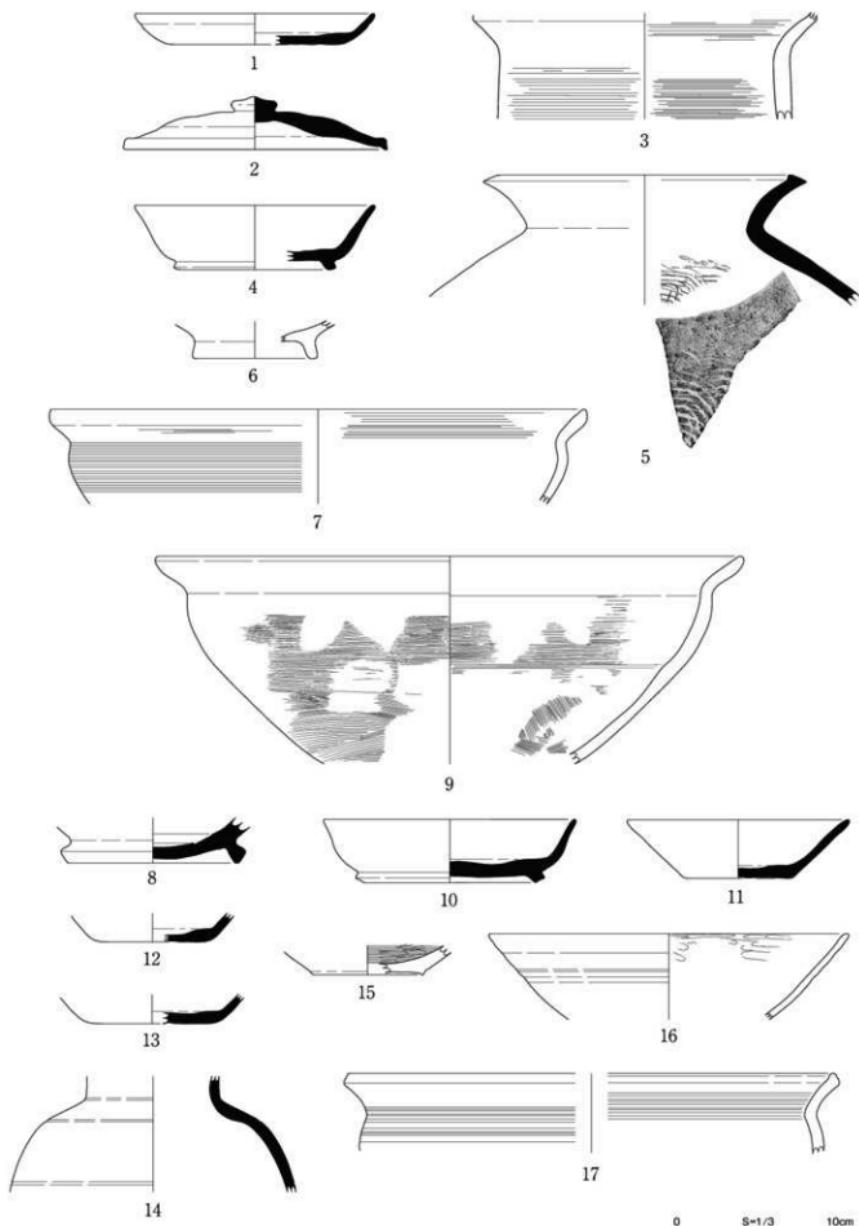
0 5-1/60 2m



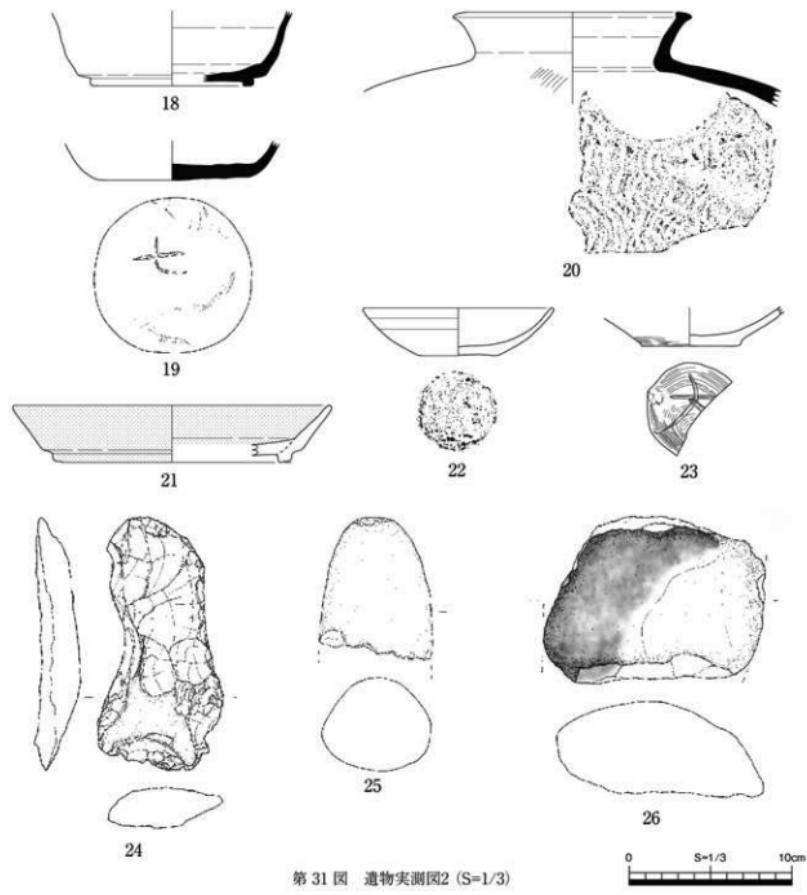
第 28 図 SK 1 (S=1/40)



第 29 図 SK 2~4 (S=1/40)



第30図 遺物実測図1 ( $S=1/3$ )



第31図 遺物実測図2 (S=1/3)

第5表 第5次土器観察表

番号	遺構	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整(外)		残存率	備考	実測番号
						調整(内)	色調(内)			
1	SI 1 須恵器 盤		14.9	1.9	10.6	ロクロナデ	青灰	1/3	底部ヘラ切り 内面に墨痕	O 1
						ロクロナデ	青灰			
2	SI 1 須恵器 蓋		16.2			ロクロナデ	淡青灰	1/2		O 2
						ロクロナデ	淡青灰、青灰			
3	SI 1 土師器 甕					ナデ、ハケ	橙褐	全体 / 1/6		O 63
						ナデ、ハケ	赤褐、橙褐			
4	SI 2 須恵器 有台环		14.8	4.0	10.0	ロクロナデ	灰	1/5		O 3
						ロクロナデ	灰			
5	SI 2 須恵器 甕		(17.8)			ナデ、タキ	褐灰	口縁小片	口縁部内外面に自然釉	O 49
						ナデ、タキ	淡灰			
6	SI 2 土師器 有台环			(7.7)		ナデ	淡褐	底部 1/3	赤色粒 海綿骨附	O 66
						ナデ	淡褐			
7	SI 2 土師器 甕		32.7			ナデ	橙褐	口縁小片	赤色粒微量 外面に煤付着	O 65
						ナデ	褐			
8	SK 2 P 3 須恵器 瓶				10.5	ロクロナデ	灰	底部 1/3		111
						ロクロナデ	灰			
9	SK 4, P 28 (SB 7) 須恵器 甕		36.3			ナデ、ハケ	褐	1/6	赤色粒	O 69
						ナデ、ハケ	褐			
10	P 32 須恵器 有台环		15.6	3.9	10.5	ロクロナデ	青灰	1/2弱		O 12
						ロクロナデ	暗褐			
11	SI 1, P 9 須恵器 包含層 环		13.8	3.6	6.7	ロクロナデ	灰白	1/5	底部ヘラ切り	O 13
						ロクロナデ	灰白			
12	P 7 (SB 4) 須恵器 环				6.9	ロクロナデ	灰	底部 1/5	底部ヘラ切り	O 18
						ロクロナデ	灰			
13	P 17 須恵器 环				8.5	ロクロナデ	灰	底部 1/6	底部ヘラ切り	O 17
						ロクロナデ	灰			
14	P 19 (SB 3) 須恵器 甕					ロクロナデ	淡青灰	全体 1/8	凹縫3本	O 51
						ロクロナデ	褐灰			
15	P 20 (SB 3) 土師器 甕				6.8	ミガキ、内面黒色	黒褐	底部 1/2	内面黒色	II 84
						ヨコナデ	淡橙褐			
16	P 20 (SB 3) 土師器 甕		22.1			ナデ	淡褐	1/8	赤色粒	O 67
						ミガキ	淡橙褐			
17	P 31 土師器 甕		(29.6)			ナデ	淡褐	口縁小片		I 72
						ナデ	淡褐			
18	包含層 須恵器 有台环				9.9	ロクロナデ	暗青灰	1/6		II 34
						ロクロナデ	暗青灰			
19	包含層 須恵器 环				9.8	ロクロナデ	青灰	底部 完形	底部外面にヘラ書き「七」	II 25
						ロクロナデ	青灰			
20	包含層上層 須恵器 甕		14.7			ロクロナデ、タキ	明青灰	口縁 1/3		II 27
						ロクロナデ、タキ	青灰			
21	包含層 土師器 有台环		19.5	3.5	14.5	ナデ、赤彩	赤彩	1/8	内外面赤彩、磨耗著しい	O 74
						ナデ、赤彩	赤彩			
22	包含層上層 土師器 甕		11.6	3.0	4.8	ナデ	淡褐	口縁 1/6 底部 完形	海綿骨片 底部削除系切刃	I 99
						ナデ	淡褐			
23	包含層 土師器 甕				6.0	ナデ、ミガキ	淡褐	底部 2/3	海綿骨片 底部削除系切刃 外面にヘラ書き「大」	I 115
						ナデ	淡褐			

第6表 第5次石製品観察表

番号	遺構	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	備考	実測番号
24	SB 7(P 34)	打製石斧	15.1	7.7	2.9	310	緑色凝灰岩	完形	T 12
25	SB 7(P 30)	敲石	(8.8)	(7.1)	(5.9)	(440)	安山岩		T 13
26	P 20(SB 3)	刮石	(10.3)	(13.7)	(6.6)	(710)	凝灰岩	算付者	T 10

## 第6章 第17次調査

### 第1節 遺構

東側から西側に向けて緩く傾斜し、調査区西端は南北に走る谷地形となっている。遺構は竪穴建物4棟の他はピットと小溝のみであり、掘立柱建物は確認できなかった。4棟のうち3棟は調査区南側に集中する。

古代の竪穴建物4棟を確認した。うち3棟は調査区外に続くため全貌は不明であるが、SI3のみ全容を確認することができた。いずれも8世紀後半のものと考えられる。

#### 竪穴建物

- SI1： 調査区北壁際で検出。北側は調査区外に延びる。検出できた部分で南北1.2m、東西4.1mの方形プランを呈する。柱穴及びカマド等は確認できなかった。(第33図・第35図-1)
- SI2： 調査区東壁南側で検出。東側は調査区外に延びる。南北4.7m、東西1.7mの方形プランを呈する。柱穴及びカマド等は確認できなかった。覆土には地山土ブロックが多く混じる。(第33図)
- SI3： 調査区南東側で検出。本調査区で唯一全容が明らかになっている竪穴建物である。南北4.2m、東西3.9mの若干南北に長い方形プラン。南東隅で焼土が集中しており、明確に残存しないものの、この付近にカマドが存在していたと考えられる。(第34図・第35図-2-3)
- SI4： 調査区南壁東側で検出。南側は調査区外に延びる。検出段階では不整形な平面プランであったため土坑である可能性を想定したが、掘削した結果貼床が認められたため竪穴建物と認定した。南北2.0m、東西2.1mの不整形な円形プランである。柱穴及びカマド等は確認できなかった。(第34図)

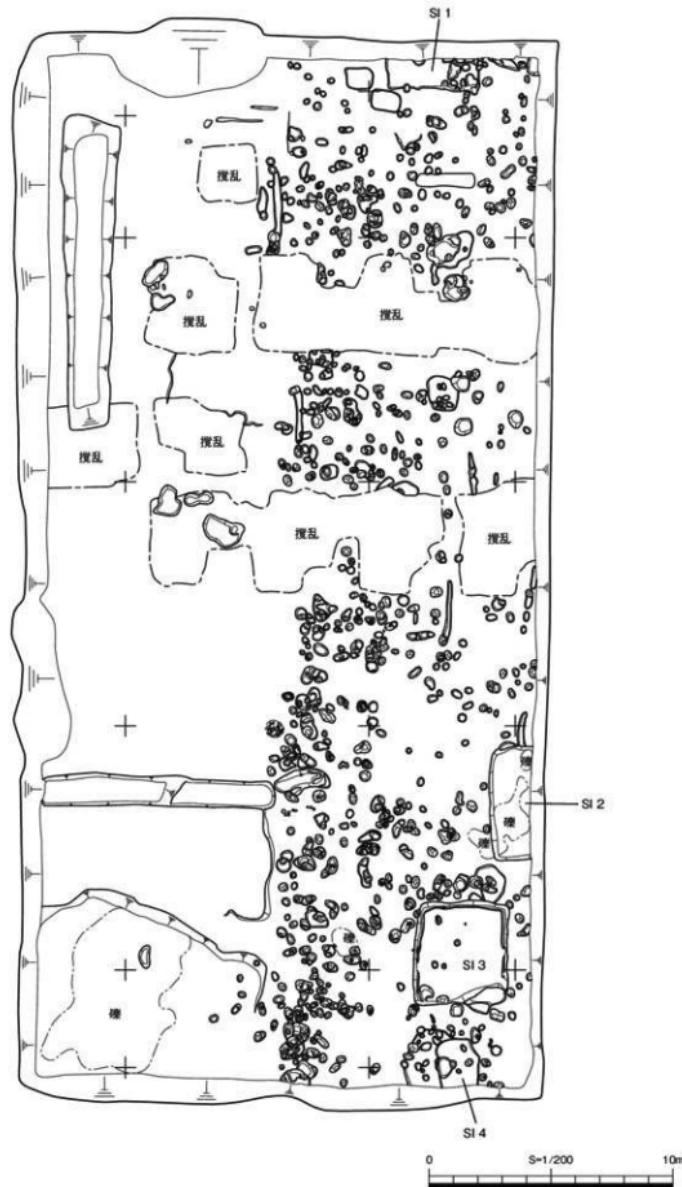
### 第2節 遺物

他の調査区と比べ出土量は少なく、パンケースで3箱分が出土している。打製石斧のほかは概ね8世紀代の土器類が出土している点で、他の調査区と共通している。

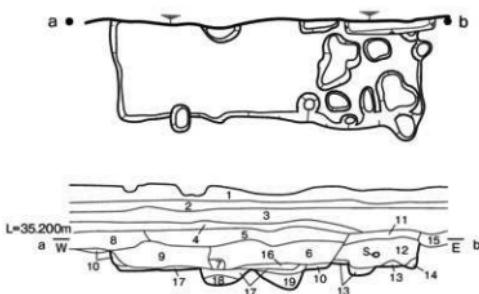
### 第3節 小結

本調査区では掘立柱建物が検出できず、第3次調査と同じく竪穴建物のみで構成される。粟田遺跡の調査区の中で最も西側の調査であり、調査区西側で検出した谷地形が集落の西端であったと考えられる。

Ⓐ

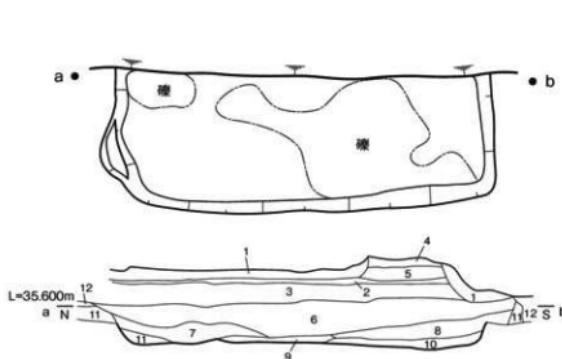


第32図 第17次調査全体図 (S=1/200)



- |  |   |
|--|---|
| 1. 痕土・耕土                                       | 8. 黒褐色(10YR3/2)粘質土に鉄分混じる                        |
| 2. (底土)黄褐色(2.5Y5/3)粘質土                         | 9. 黒褐色(10YR3/2)粘質土に<br>黄色(2.5Y8/6)土(小粒)混じる      |
| 3. 暗灰色(10YR5/1)粘質土                             | 10. 灰黃褐色(10YR4/2)粘質土に鉄分混じる                      |
| 4. 暗灰色(10YR4/1)粘質土                             | 11. 鮎褐色(10YR3/3)粘質土                             |
| 5. 黒褐色(10YR3/2)粘質土                             | 12. 鮎褐色(10YR3/4)粘質土                             |
| 6. 黒褐色(10YR3/2)粘質土に<br>黄色土(2.5Y8/6)ブロック土(大)混じる | 13. 鮎褐色(10YR3/4)粘土に<br>褐色(7.5YR4/3)粘質土(塊土)混じる   |
| 7. 黄色土(2.5Y8/6)粘質土に<br>黒褐色(10YR3/2)粘質土混じる      | 14. 鮎褐色(10YR3/4)粘質土に<br>黄色(2.5Y8/6)粘質土混じる       |
|  | 15. 鮎褐色(10YR3/4)粘質土に鉄分混じる                       |
|  | 16. 灰黃褐色(10YR4/2)粘質土に<br>黄色(2.5Y8/6)粘質土との混土(駆除) |
|  | 17. 灰黃褐色(10YR4/2)粘質土に<br>黄色(2.5Y8/6)粘質土混じる      |
|  | 18. 黒褐色(10YR3/1)粘質土                             |
|  | 19. 黄色(2.5Y8/6)粘質土に灰黄色(10YR4/2)混じる              |

SI 1

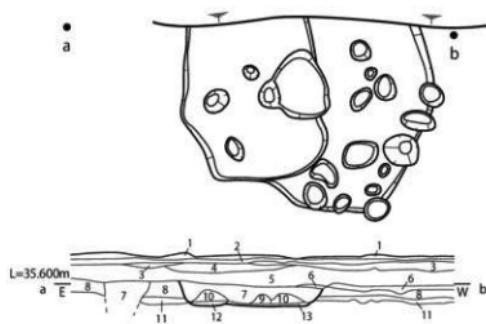
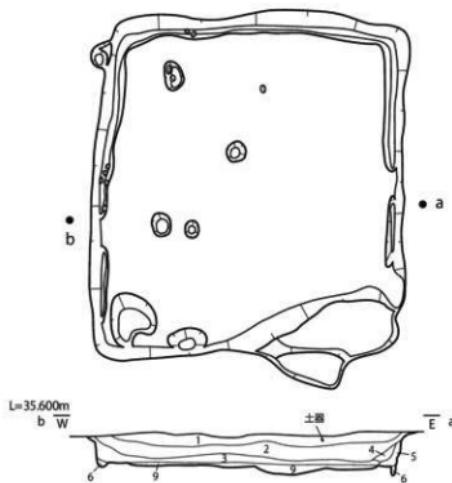


- |                        |   |
|------------------------|---|
| 1. 暗灰色(N3/)粘土(旧用水か)    | 7. 黒褐色(10YR3/1)粘質土                      |
| 2. 黄褐色(2.5Y5/3)粘質土(底土) | 8. 黒褐色(10YR3/2)粘質土に黄色(2.5Y8/6)粘質土混じる    |
| 3. 暗灰色(10YR5/1)粘質土     | 9. 黑褐色(10YR2/2)粘質土                      |
| 4. 灰色(7.5Y4/1)粘土(旧耕土)  | 10. 黑褐色(10YR2/2)粘質土に黄色土(2.5Y8/6)粘質土混じる  |
| 5. 灰色(7.5Y5/1)粘土(旧耕土)  | 11. 鮎褐色(10YR3/4)粘質土に鉄分混じる               |
| 6. 黑褐色(10YR3/2)粘質土     | 12. 灰色(7.5Y4/1)粘土と灰色(7.5Y5/1)粘土との混土(擾乱) |

SI 2

第 33 図 SI 1-2 (S=1/60)

0 5-1/60 2m

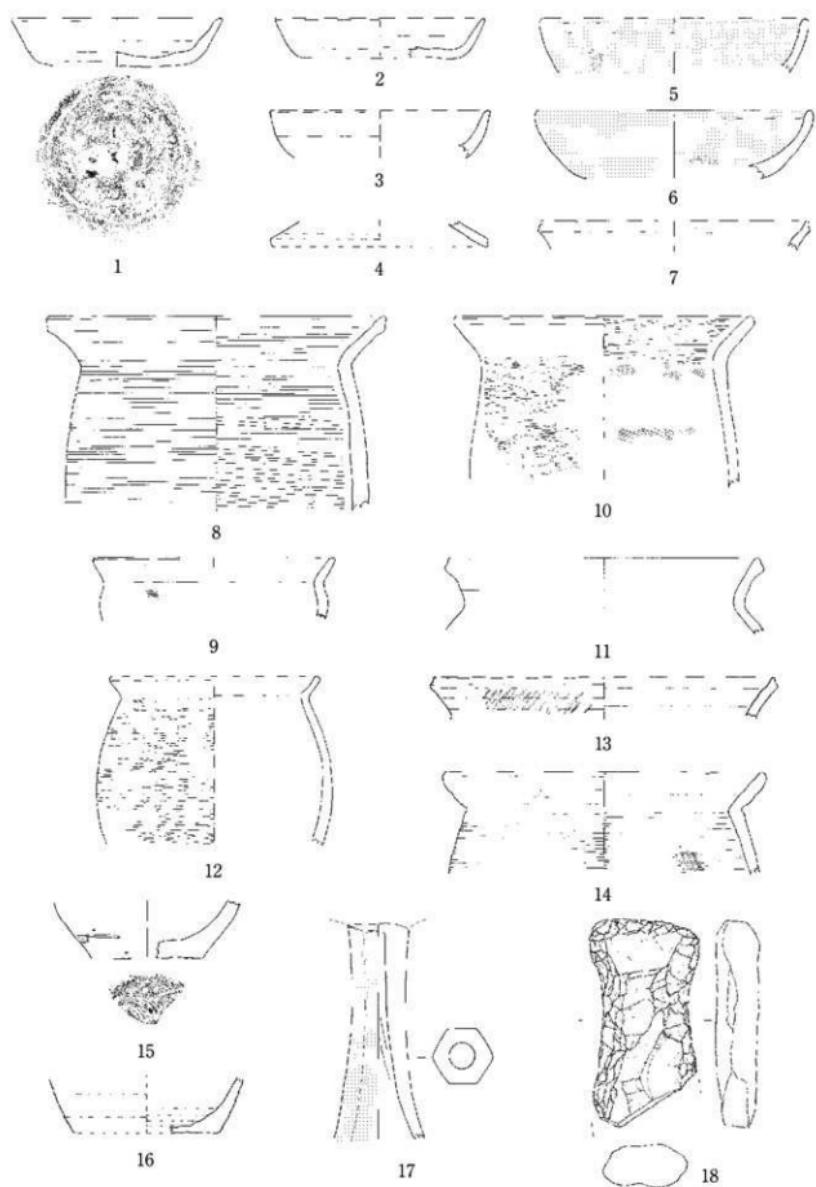


1. (耕土) 反青褐色(10YR5/2)粘質土  
2. (底土) 明褐色(2.5YB/6)粘質土  
3. 桃褐色(10YR5/1)粘質土  
4. 反青褐色(10YR4/2)粘質土  
5. 桃褐色(10YR4/1)粘質土  
6. 暗褐色(10YR2/3)粘質土  
7. 黒褐色(10YR2/2)粘質土  
8. 黒褐色(10YR3/2)粘質土  
9. 黒褐色(10YR2/2)粘質土に黄色(2.5YB/6)粘質土混じる  
10. 黒褐色(10YR2/2)粘質土に反青褐色(5YR5/4)粘質土混じる  
11. 黒褐色(10YR3/2)粘質土に黄色(2.5YB/6)粘質土混じる  
12. 黒褐色(10YR3/2)粘質土に黄泥じる  
13. 明褐色(10YR7/6)粘質土に黒褐色(10YR2/3)粘質土混じる(粘床)

SI 4

第 34 図 SI 3-4 (S=1/60)

0 5-1/60 2m



第35図 遺物実測図1 (S=1/3)

0 8-1/3 10cm

第7表 第17次土器観察表

番号	造構	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整(外)		残存率	備考	実測番号
						調整(内)	色調(内)			
1	SI 1	須恵器 环	128	30	8.0	回転ナデ	灰白、灰	口径4/5	重ね焼痕	NO 1
						回転ナデ	灰			
2	SI 3	須恵器 环	128	25	10.0	回転ナデ	灰	口径1/3 底径7/18		NO 2
						回転ナデ	灰白			
3	SI 3	須恵器 环	(13.6)			ナデ	灰白	口縁部1/9 胴部1/5		OY 4
						ナデ	灰白			
4	壁面	須恵器 壺	136			ロクロナデ	灰	蓋口径5/36	自然釉	T 16
						ロクロナデ	灰			
5	SI 3 カマド	土師器 壺	166			ナデ、ミガキ	浅黄橙	口径1/6 体部径1/4	内外面に赤彩 外面に黒斑	T 7
						ナデ	浅黄橙			
6	重機掘削	土師器 壺	17.2	体部径 13.0		ナデ	浅黄橙	口径1/12 体部径1/4	内外面に赤彩	T 17
						ナデ、ミガキ	浅黄橙			
7	包含層	土師器 壺	165			ヨコナデ	にぬい黄橙	口縁部1/9	口縁部に煤	OY 13
						ヨコナデ、カキメ	にぬい黄橙			
8	SI 1	土師器 壺	208			ナデ、カキメ	にぬい橙	口径1/3	外面に煤	KA 9
						ナデ、カキメ	にぬい橙			
9	SI 1	土師器 壺	15.0	頭部径 13.6	14.1	ナデ	にぬい黄橙	口縁部1/9		OY 5
						ナデ	浅黄橙			
10	SI 3	土師器 壺	(184)	頭部径 15.2	体部径 (16.5)	ヨコナデ、カキメ、ケズリ	にぬい橙	口縁部1/8 頭部1/5	内面に煤	OY 10
						カキメ、ヨコナデ、ハケ	にぬい黄橙			
11	SI 3	土師器 壺	(19.0)	頭部径 17.2		ナデ	橙	口径1/12 頭部1/6	外側口縁部に煤	NO 3
						ナデ	浅黄橙			
12	SI 3 カマド	土師器 壺	12.6	頭部径 11.6	体部径 14.6	ナデ、カキメ	にぬい黄橙	口縁部4/9	内外面に煤	NO 8
						ナデ	浅黄橙			
13	SI 3	土師器 壺	21.0			ナデ	灰白	5/36		T 6
						ナデ	浅黄橙			
14	P 4	土師器 壺	20.0	頭部径 17.0		ヨコナデ	にぬい黄橙	口径1/9 黒部1/6	外面に煤	T 14
						ナデ、カキメ、ハケ	にぬい黄橙			
15	P 5	土師器 壺			7.0	ケズリ、ナデ	灰黃褐色	底部1/4	回転糸切跡	KU 12
						ナデ	灰白			
16	P 4	土師器 壺			9.0	ナデ	灰白	底径1/6	外面に煤	T 15
						ナデ	浅黄橙			
17	P 1	土師器 高壺		脚部径 37		ナデ	浅黄橙	脚部全周	外面六角形に面取り 外面に赤彩	OY 11
						ナデ	橙			

第8表 第17次石製品観察表

番号	造構	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	備考	実測番号
18	P 3	石鉗	129	6.2	27	305	砂岩	砾石に転用したか?	T 18

## 第7章 総括

本報告書を持って、17次にわたる栗田遺跡発掘調査の全報告を行った。ここでは紙面の制限から4か年次分の調査成果を中心に総括する。

本報告書の4調査区で合わせて竪穴建物21棟、掘立柱建物17棟を検出した。いずれも8世紀後半から9世紀初頭に含まれるものであり、これまでの調査結果と一致する。過年度報告の中では竪穴建物と掘立柱建物が数棟ずつまとまりをなす散居村の様相を呈するとしてきたが、第4次及び第17次調査区では竪穴建物のみが集中する。

新たに明らかになったこととして、第3次調査SB5及びSB6や第5次SB7といった方形掘方の柱穴をもつ大型掘立柱建物の存在があげられる。周辺では墨書き土器や箋書きをもつ土器が出土しているほか、第1次、第4次及び第16次調査で検出されている道路状道構との関連性が着目される。第1次調査でみつかった道路状道構は8世紀の第2から第3四半期に設けられ、第4次四半期に改修されたことが判明している。道路幅約4.2mと狭く、南東から北西方向へ延びる。第16次調査でみつかったものはやや湾曲しつつ南西方向へ延び、第1次調査区北西隅で合流する。

野々市市北部に位置する三日市A遺跡の第9次調査区では古代北陸道がみつかっている(田村2012b)。また近接する三日市A遺跡第19次調査では、石川郡内の駅家の可能性が指摘される大型の掘立柱建物が検出されている(田村2012a)。いずれも栗田遺跡と比べ後出するものであるが、栗田遺跡でみつかった道路状道構は古代北陸道と比べ狭く、整備される以前の交通路から南へ延びる支道の1つであると考えられる。

本報告で取り上げた建物を公的な施設と断定するには決め手に欠くが、栗田遺跡は人や物が行きかう交通の結節点であり、大型の建物が並び地域の拠点的役割を担っていた集落跡と評価できよう。

### （参考文献）

- 小鶴芳孝ほか、1991、「栗田遺跡発掘調査報告書」社団法人石川県埋蔵文化財保存協会  
田村昌宏ほか、1992、「栗田遺跡第二次発掘調査報告書」野々市町教育委員会  
田村昌宏ほか、2000、「栗田遺跡春平地区　清金アガトウ遺跡」野々市町教育委員会  
田村昌宏、2012a、「三日市A遺跡3」野々市町教育委員会  
田村昌宏、2012b、「三日市A遺跡5」野々市町教育委員会  
永野勝章、2006、「栗田遺跡（第10次）　三納アラミヤ遺跡（第1・2次）三納トヘイダゴシ遺跡（第1・3次）」野々市町教育委員会  
永野勝章、2008、「栗田遺跡（第12・15次）」野々市町教育委員会  
永野勝章、2009、「栗田遺跡（第16次）」野々市町教育委員会  
永野勝章、2010、「栗田遺跡（第11・13・14次）」野々市町教育委員会  
野々市町史編纂専門委員会、2006、「野々市町史」通史編



調査区西側(南から)



調査区東側(南西から)



SB 8,SK 3 (南から)



SB 5-6 (南西から)



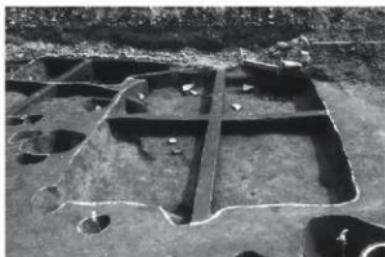
SB 5 柱穴(北から)



SI 1(南から)



調査区全景(西から)



SI 2 土層断面(北から)



SI 3 土層断面(北から)



SI 4 土層断面(西から)



SI 5 土層断面(西から)



SI 6 土層断面(南から)



SI 7 完掘(南から)



SI 8-9 土層断面(南から)



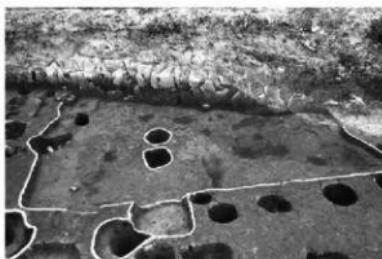
SI 10 土層断面(北から)



SI 11 土層断面(北から)



SI 1 (北から)



SI 2 (西から)



SB 1 (西から)



SB 2 (南から)



SB 5-6 (北から)



SB 6-7-8 (南から)



SB 8(北から)



全景(北東から)



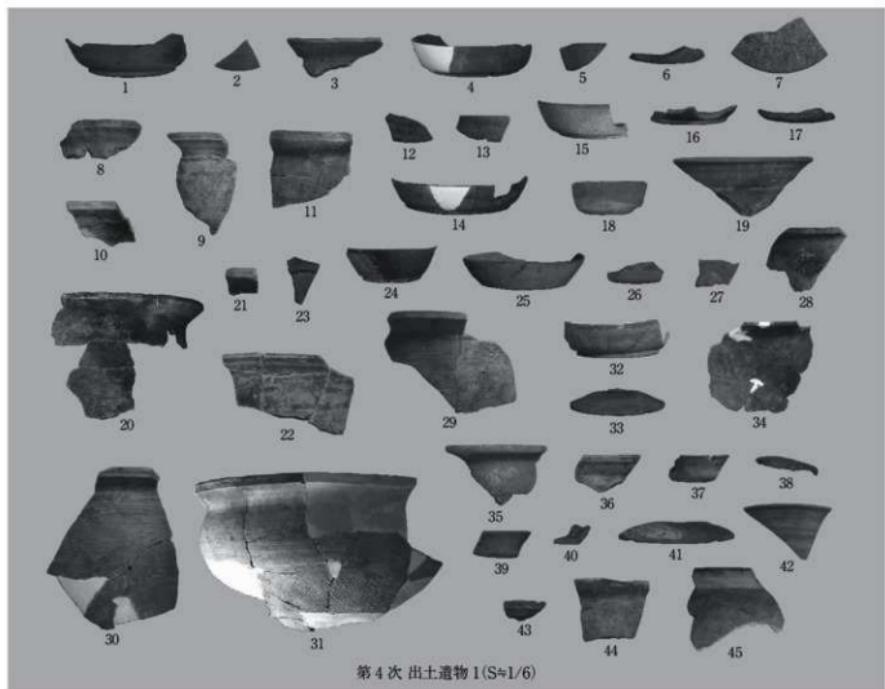
全景(北西から)



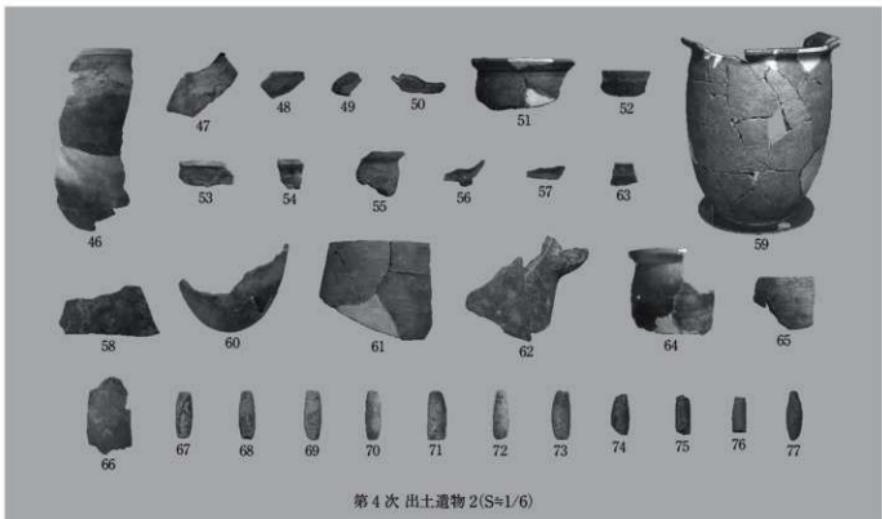
SI 3 (北から)



第3次 出土遺物(S≈1/6)



第4次 出土遺物 1(S≈1/6)



写真図版 6

報 告 書 抄 錄

ふりがな	あわだいせき									
書名	粟田遺跡（第3・4・5・17次）									
副書名	野々市市スポーツランドほか整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書									
著者名	腰地 季大									
編集機関	野々市市教育委員会									
所在地	〒921-8510 石川県野々市市三納一丁目1番地 Tel: 076-227-6122									
発行機関	野々市市教育委員会									
発行年月日	西暦 2018年3月23日									
アーチカル 所収遺跡名	アーチカル 所在地	コード		北緯	東経	調査期間・調査面積	調査原因			
		市町村	遺跡番号							
アーチカル 粟田遺跡	石川県 野々市市 粟田・中林	17344	16008	36°	136°	第3次 平成元(1989) 1,000m <sup>2</sup>	記録 保存 調査			
				30'	20'	第4次 平成2(1990) 3,500m <sup>2</sup>				
				30°	30°	第5次 平成4(1992) 1,000m <sup>2</sup>				
						第17次 平成25(2013) 500m <sup>2</sup>				
				種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	
				集落	古代・中世	竪穴建物 21 据立柱建物 17、道路状遺構			須恵器、土師器 墨書き土器、土鍾、砾石	
要約	粟田遺跡の南西部を調査。8世紀中ごろから9世紀初頭の建物を検出。第3次と第5次で方形掘方を持つ大型の据立柱建物を検出。既報告分で検出した道路状遺構の延長部分を第4次調査で検出。									

2018年3月23日 発行

野々市市スポーツランドほか整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

粟田遺跡（第3・4・5・17次）

著作権所有 石川県野々市市三納一丁目1番地

発行者 野々市市教育委員会

印刷者 石川県野々市市矢作三丁目18

高桑美術印刷株式会社